

三管区管内過去5年間(H15~19年) 遊漁船における海難事故及び 釣り愛好者事故の分析結果について

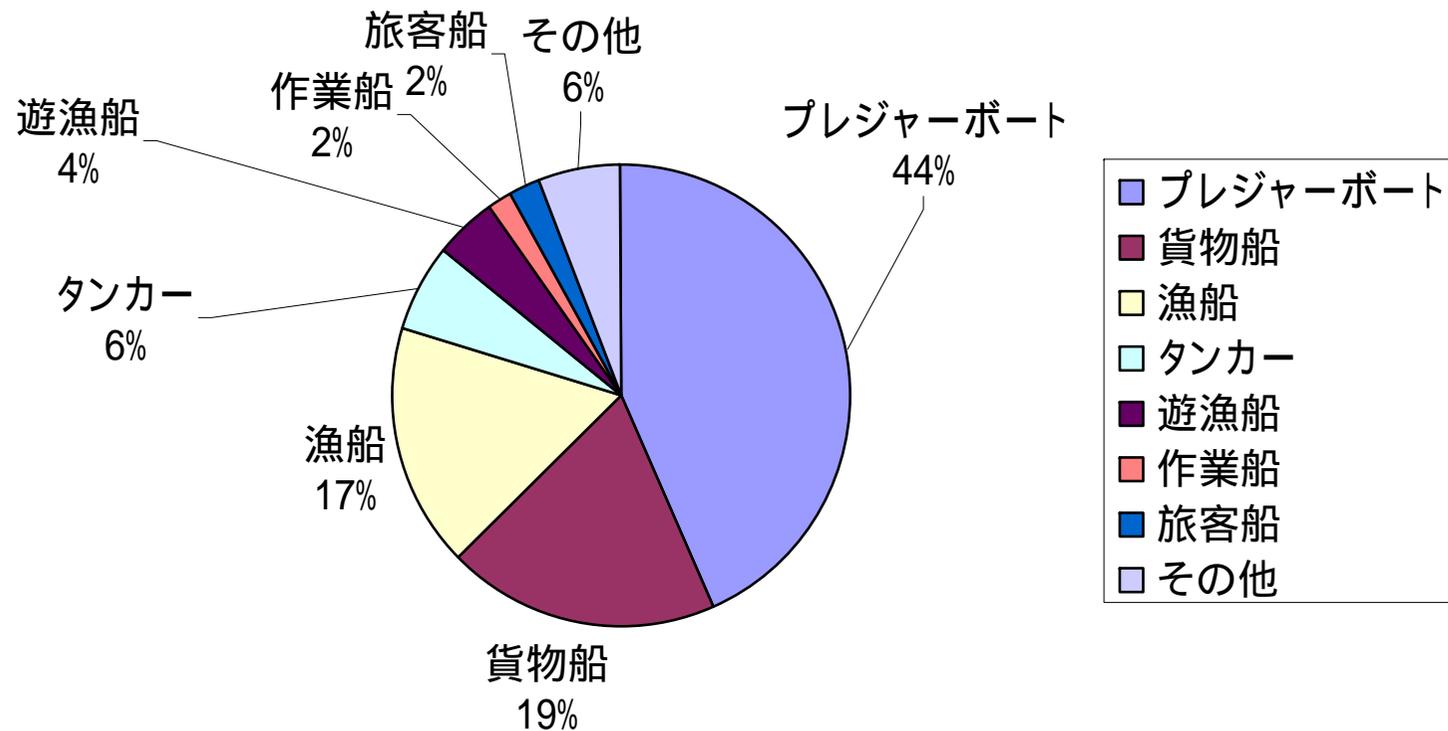


第三管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室

1 遊漁船における海難事故

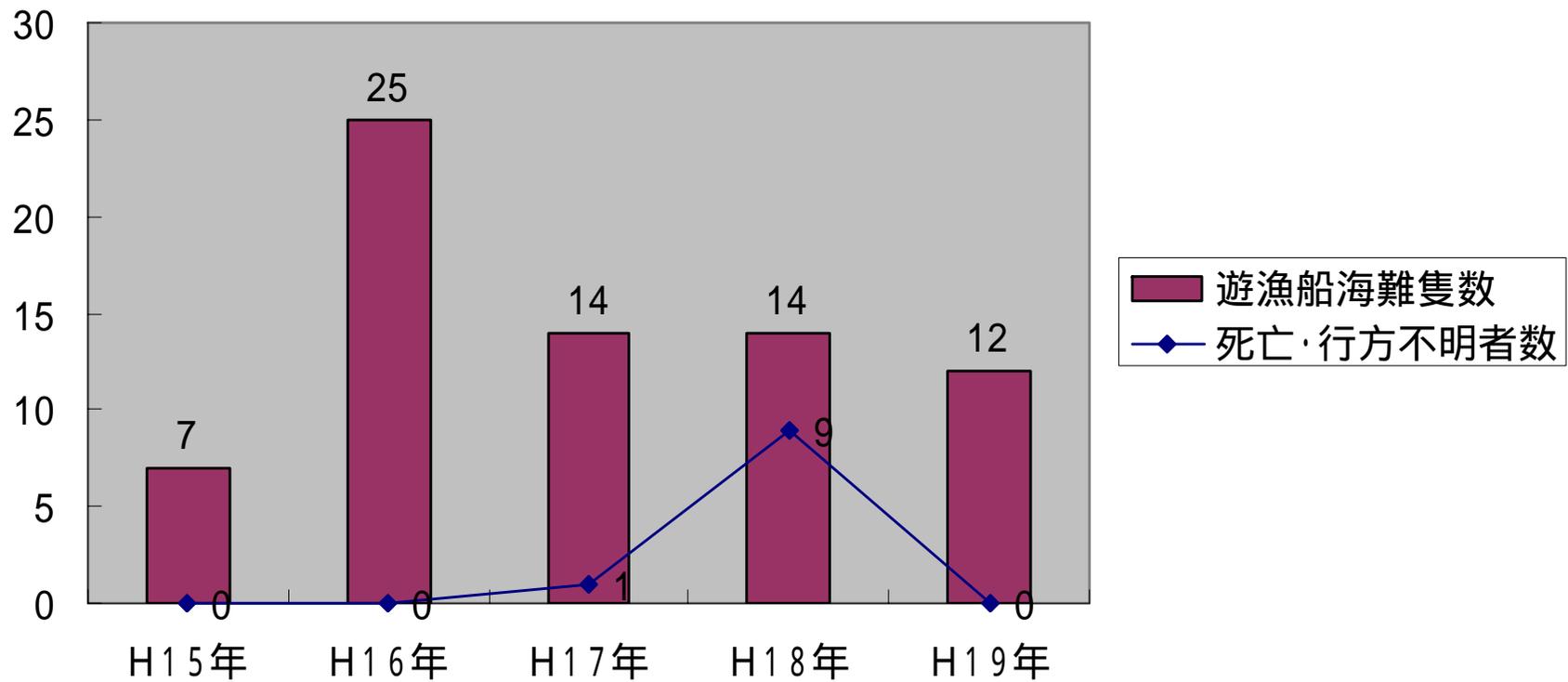
三管区の全船舶海難における 遊漁船の割合 (H15～19年)

三管区内過去5年間の海難船舶種別



過去5年間の遊漁船海難隻数と死亡者数

過去5年間の海難隻数等



事故事例1

遊漁船第三明好丸転覆海難



第三明好丸の船底部



神津島で復元中の該船

平成18年10月8日早朝、遊漁船第三明好丸(総トン数16トン)は、下田港で釣り客14名を乗船させ、低気圧の影響により大時化のなか新島沖向け航行中、後方からのうねりを受け短時間で転覆し、乗船中の15名のうち8名は救助されましたが、2名が死亡し5名が行方不明となりました。

この事故では15名全員が救命胴衣を着用していませんでした。

この事故で海に投げだされた1名が大型のクーラーボックスにつかまり巡視艇に救助されています。

事故事例2 遊漁船からの海中転落事故

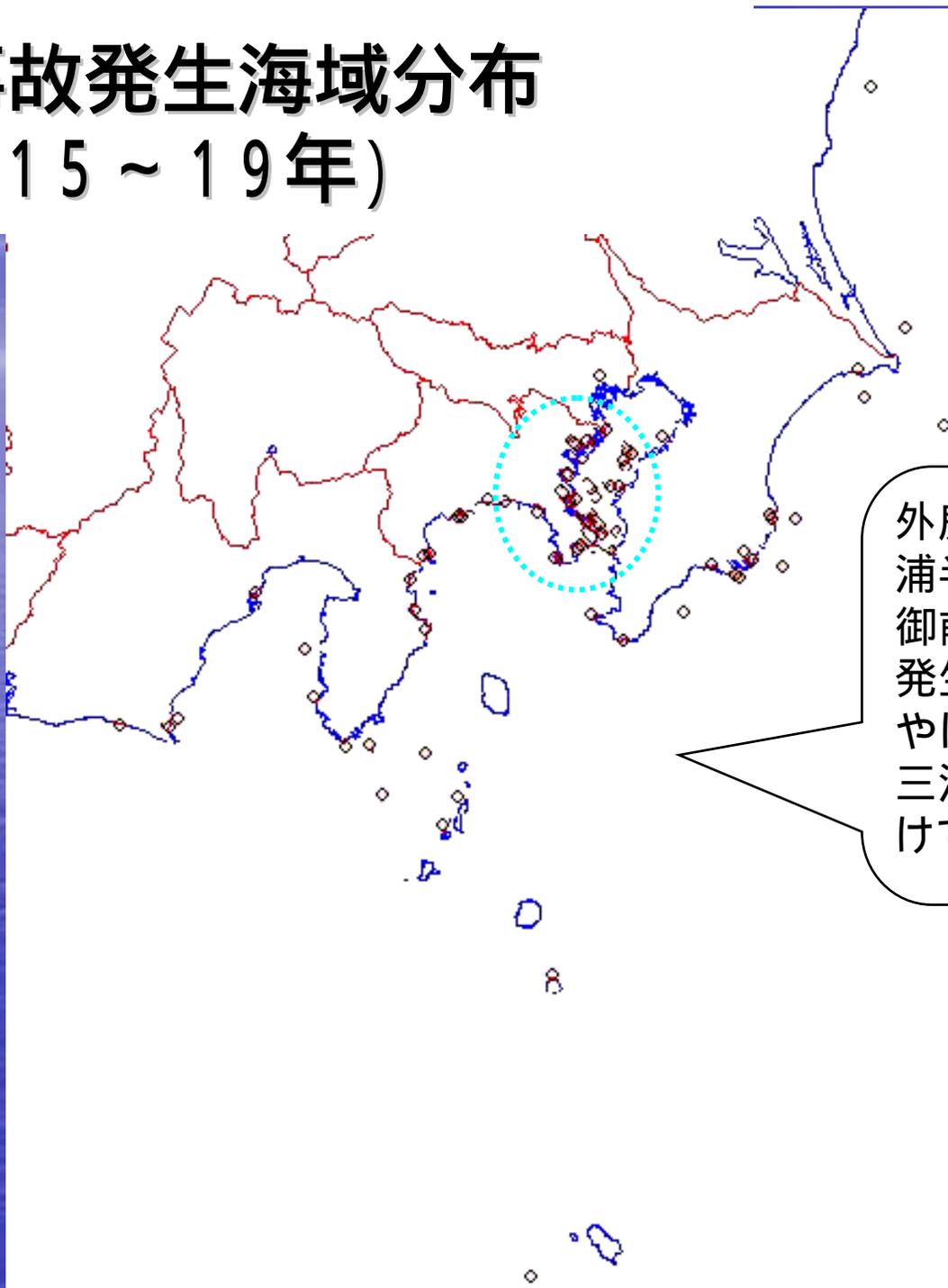


行方不明者搜索の状況

平成19年1月4日午後、静岡県伊東市の沖合いで遊漁船第5妙法丸(総トン数9.7トン)から同船船長の長女(11歳)が海に転落し、船長も助けようと海に飛び込んだが、行方不明となった。長女は約40分後に救助されたが病院で死亡が確認された。また、行方不明となった船長は、1月8日遺体で発見された。

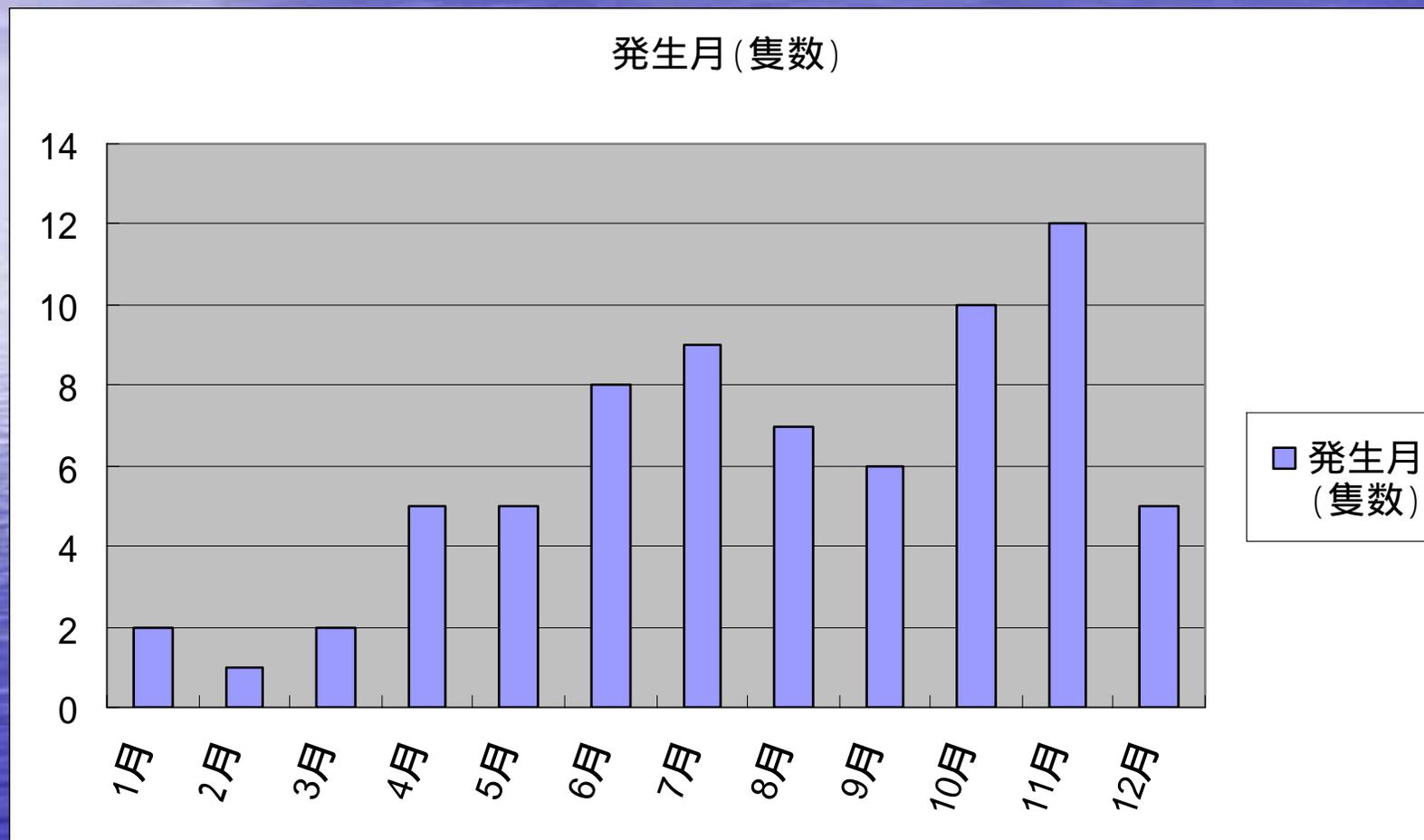
この事故では船長とその家族の計4名が乗船していましたが、全員が救命胴衣を着用していませんでした。

遊漁船の事故発生海域分布 過去5年(H15～19年)



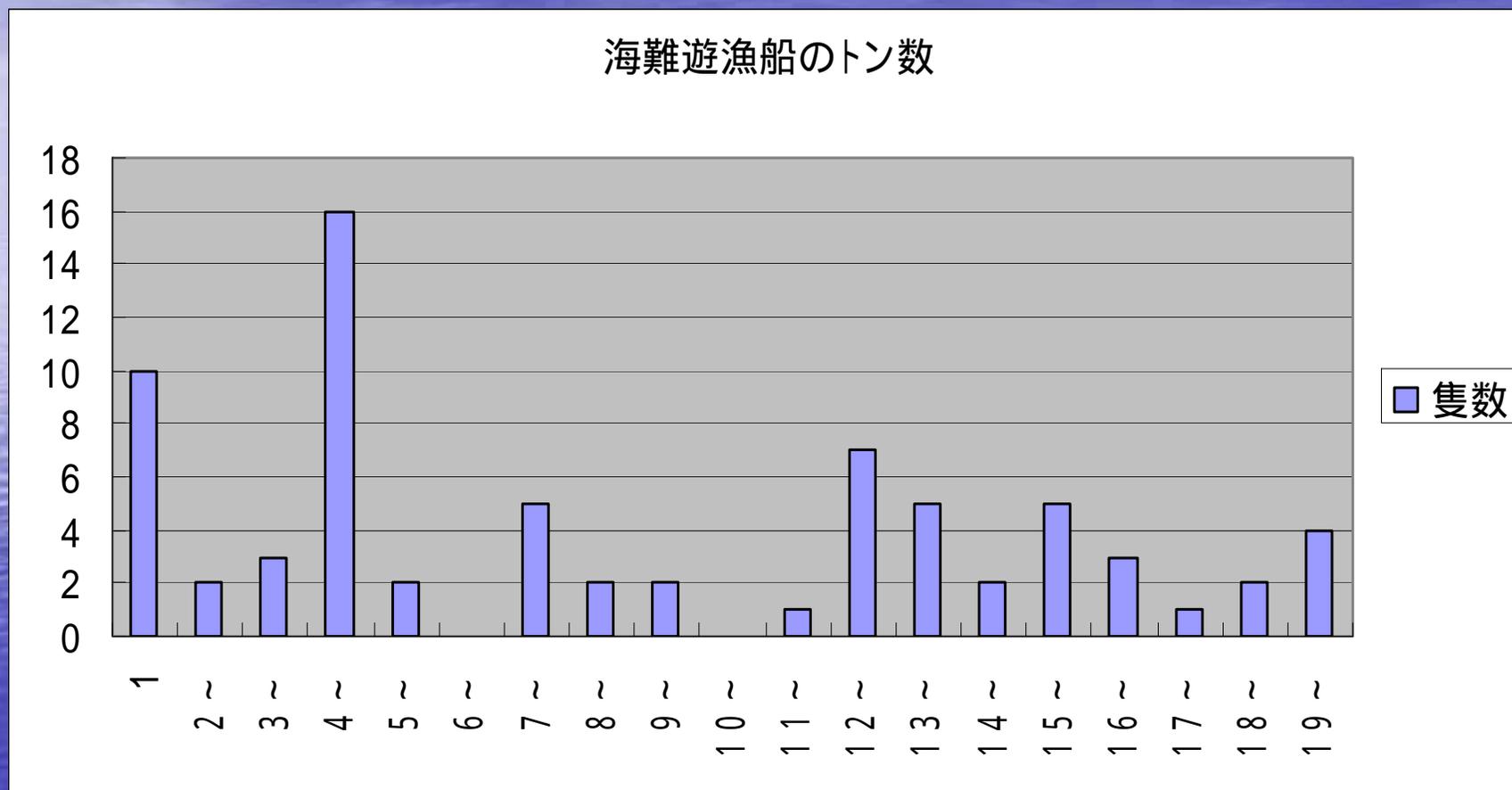
外房、東京湾、三浦半島、伊豆半島、御前崎沖で海難が発生していますが、やはり東京湾から三浦半島周辺にかけて多い。

遊漁船海難事故の発生月の状況



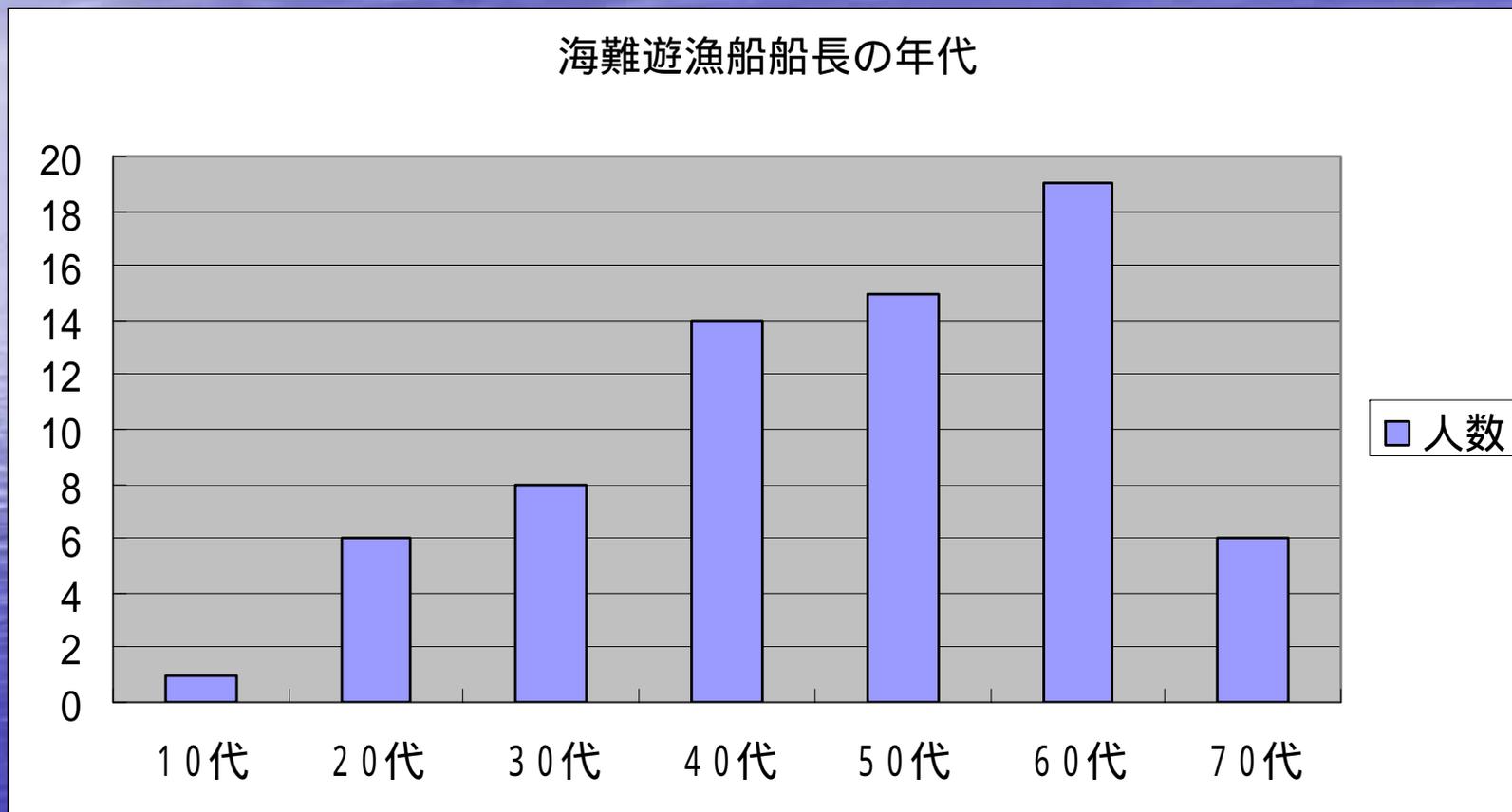
10・11月が多い

海難事故の遊漁船総トン数の状況



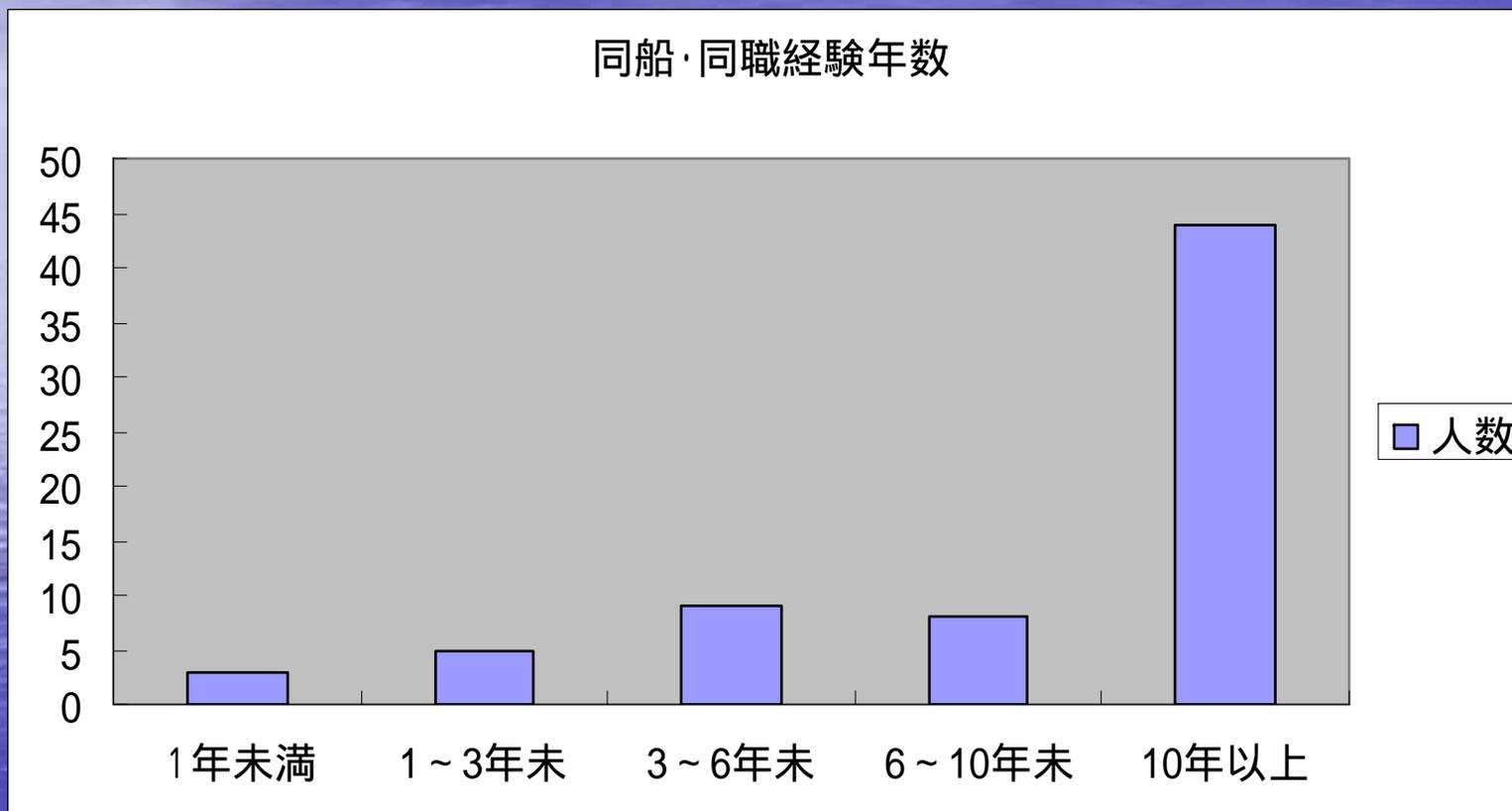
4 ~ 5トン未満の船が最も多い

海難事故の遊漁船船長の年代状況



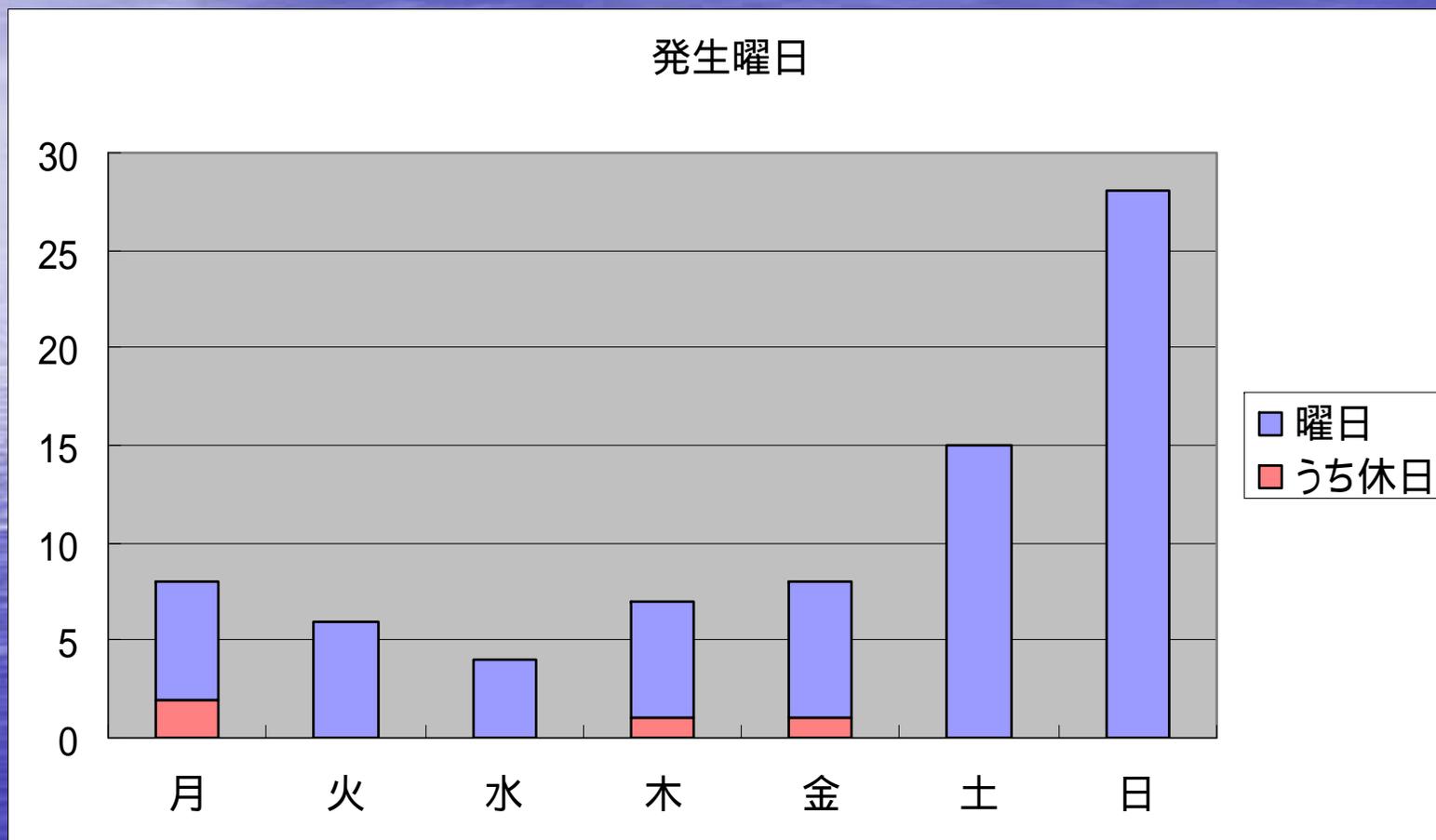
60代、50代が多い

海難遊漁船船長の経験年数



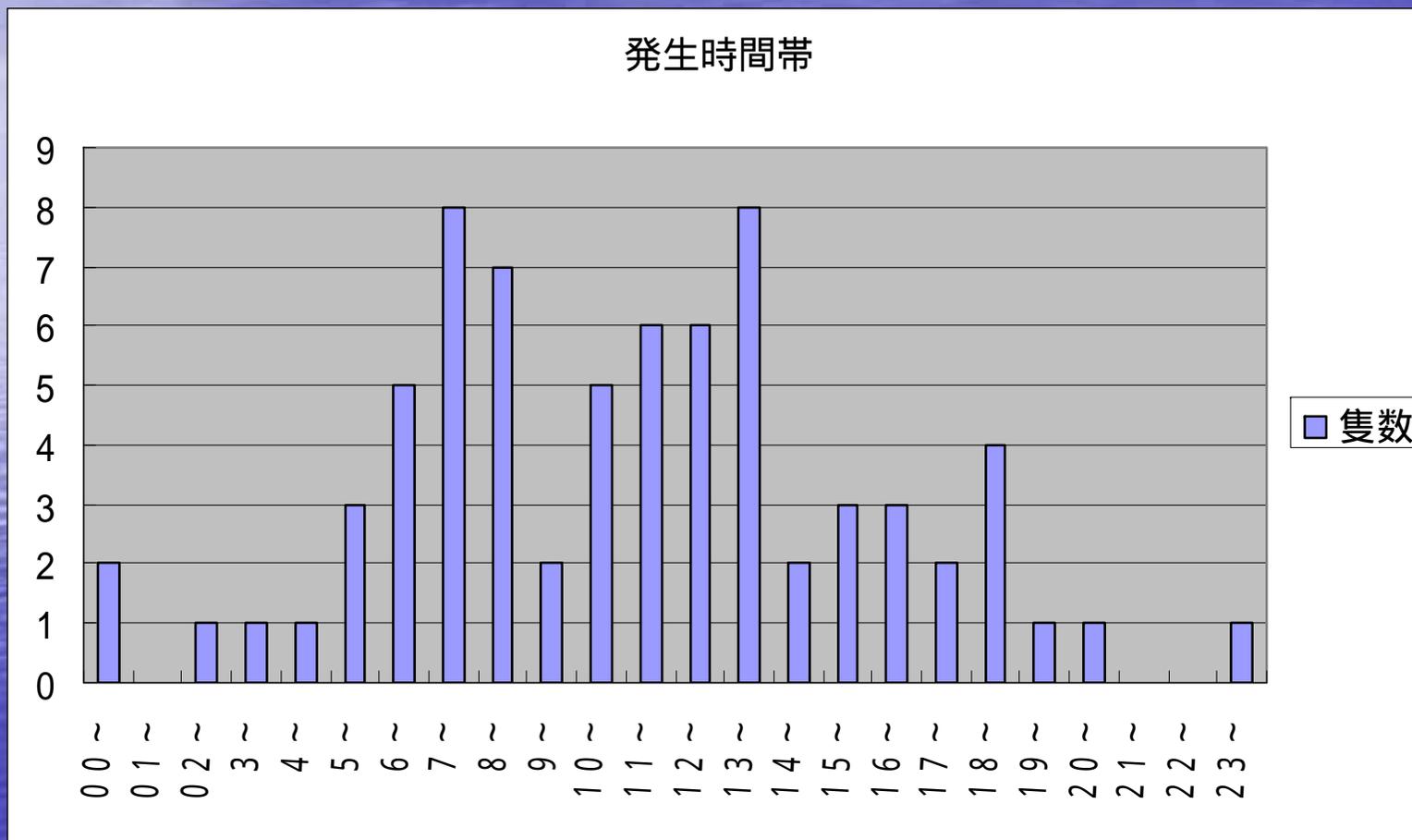
経験豊富な船長であっても、事故は多く発生している。

遊漁船海難事故の曜日別発生状況



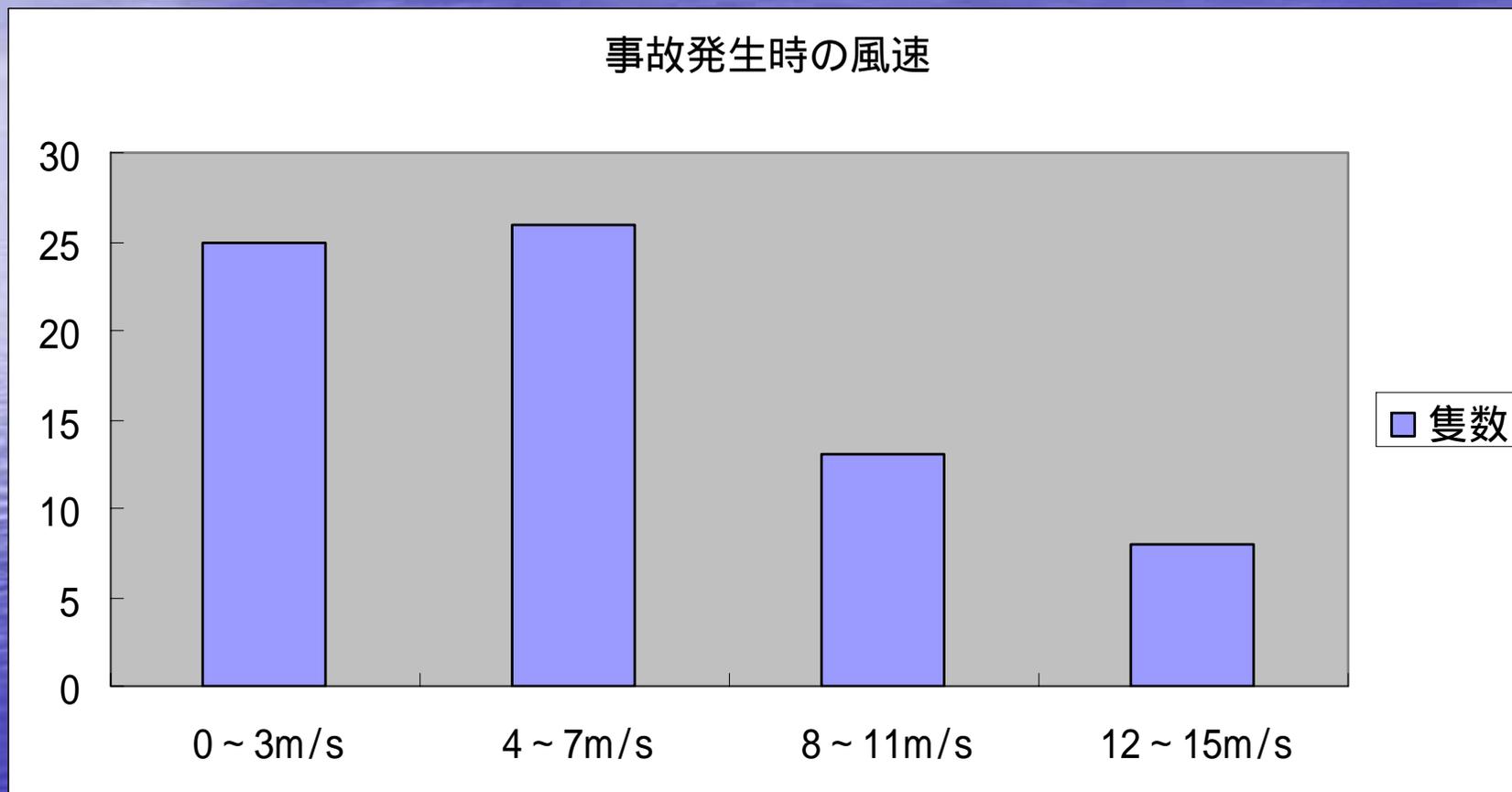
日曜日が多い

遊漁船海難事故の発生時間帯の状況



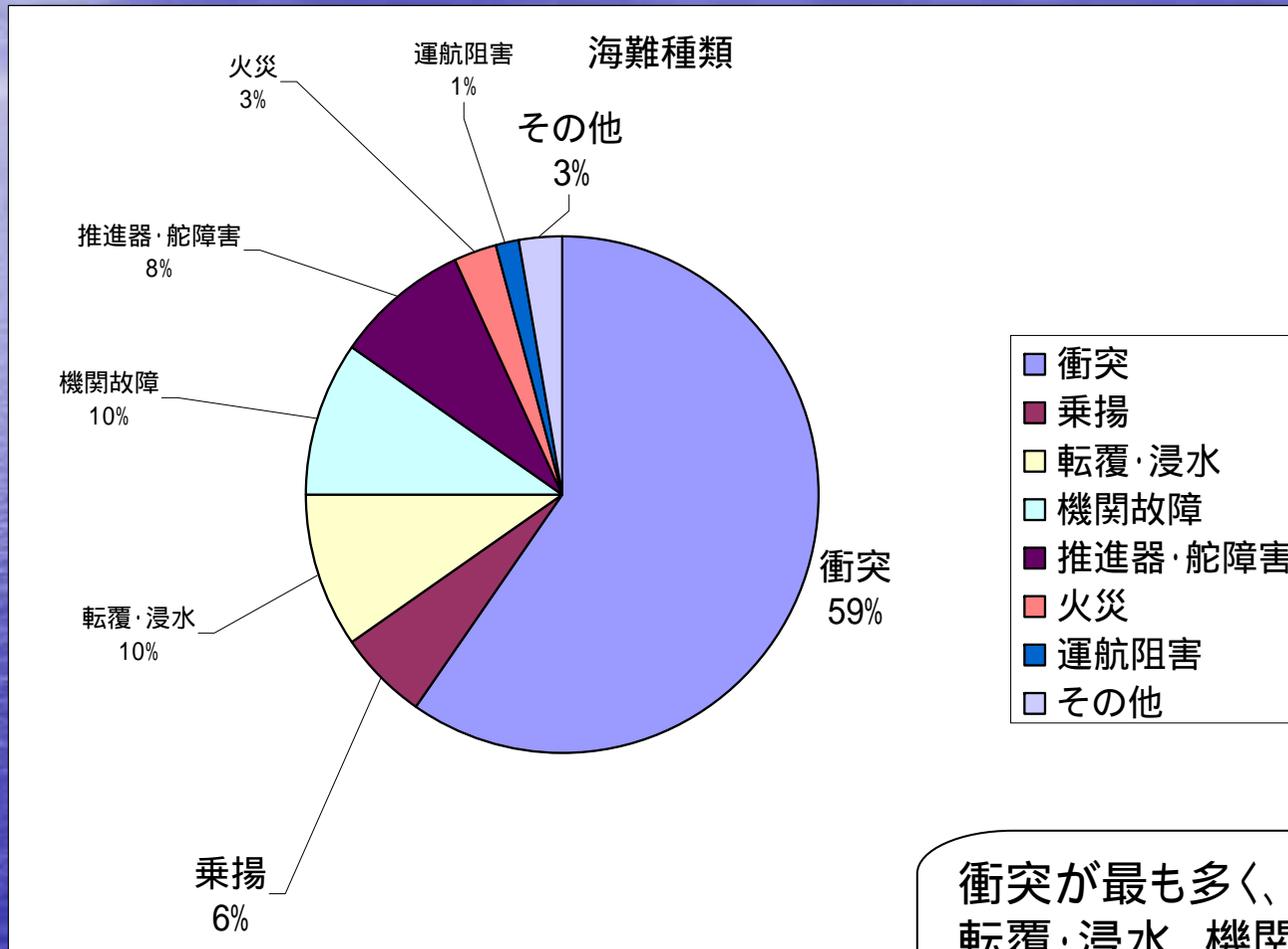
早朝から13時頃までが多い

遊漁船の海難事故発生時の気象



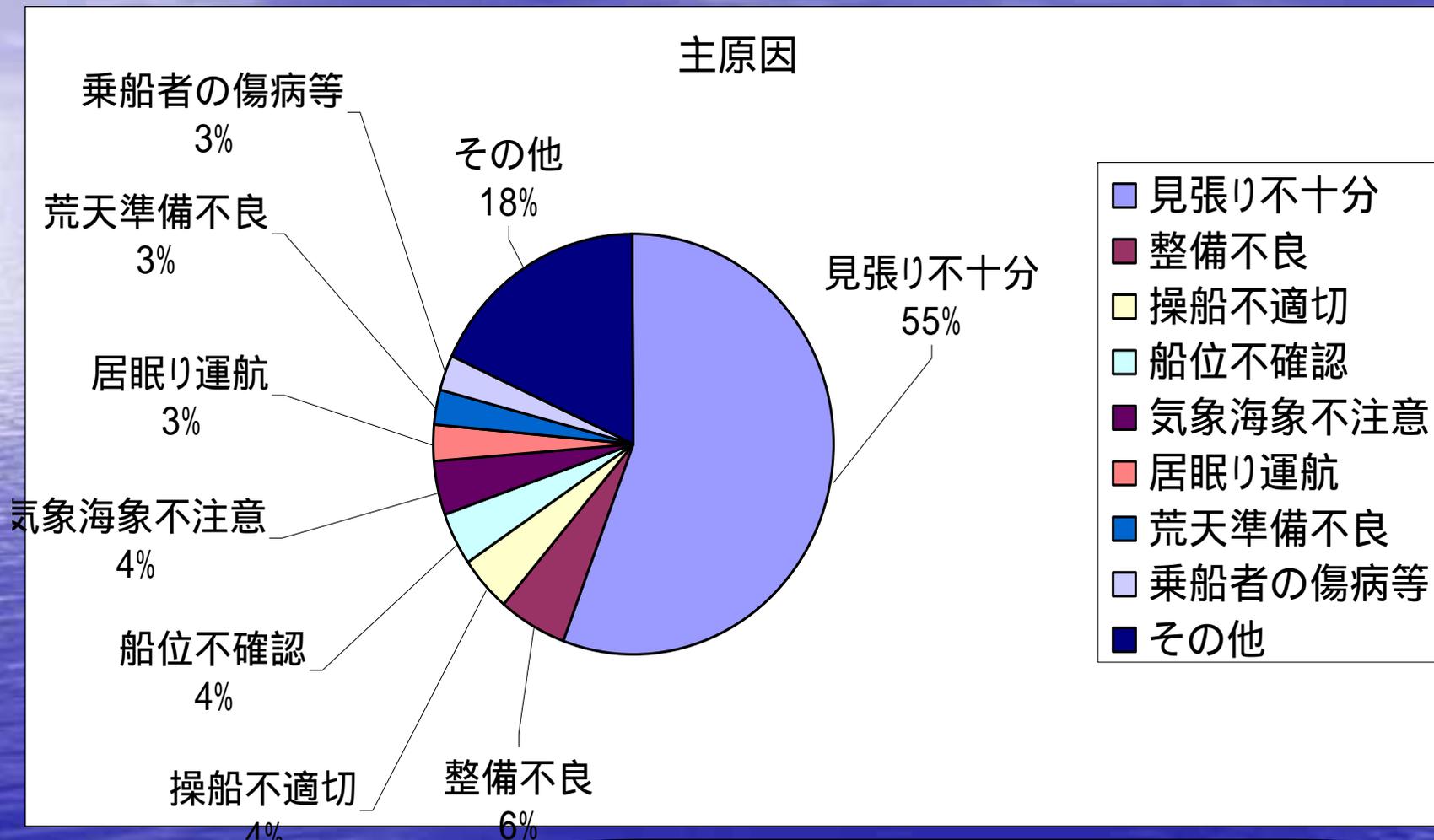
平穏な気象状況での事故が多い。

遊漁船海難事故の種別



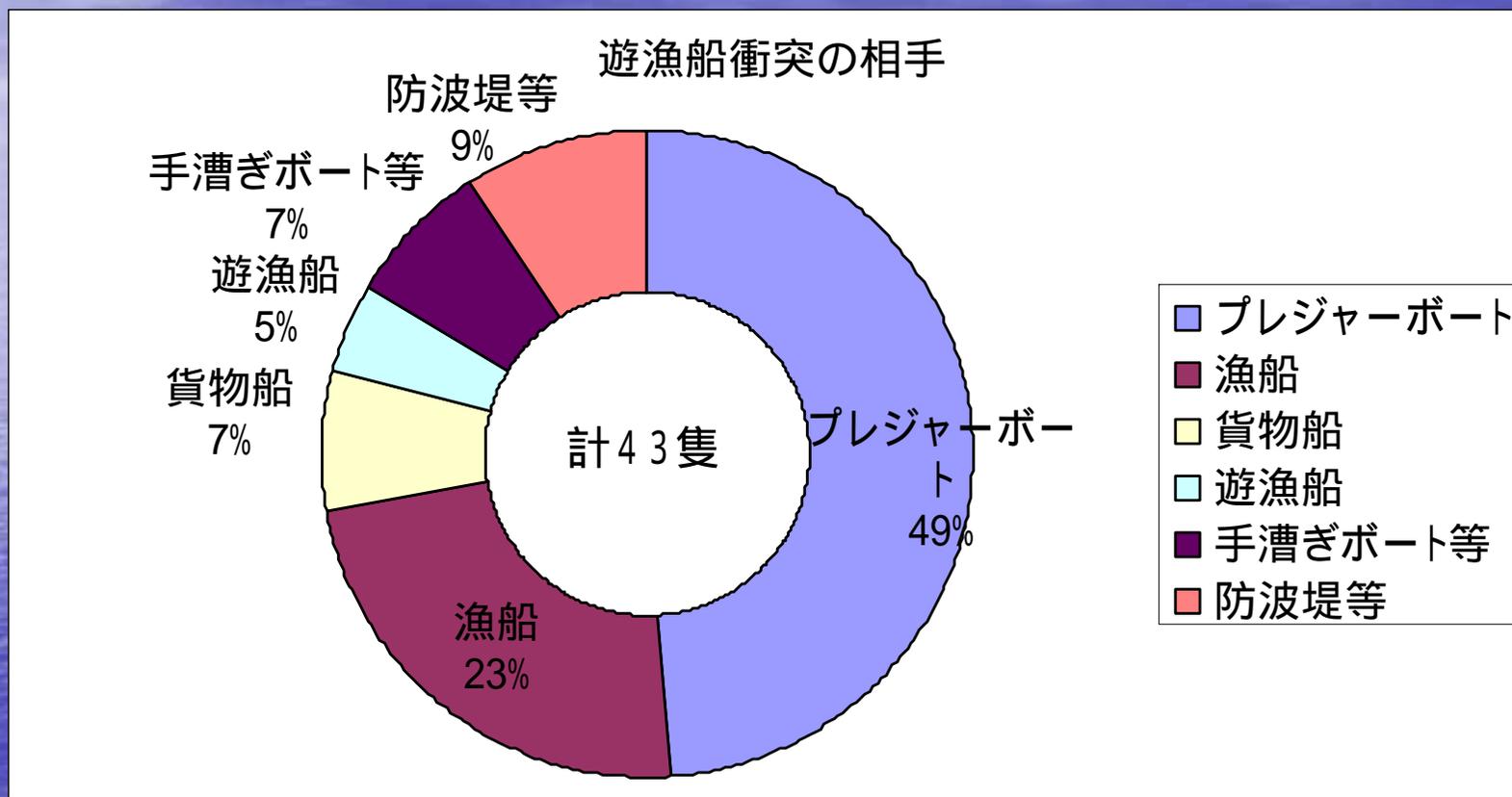
衝突が最も多く、次いで
転覆・浸水、機関故障、
推進器・舵障害となっ
ている。

遊漁船海難事故の主原因の状況



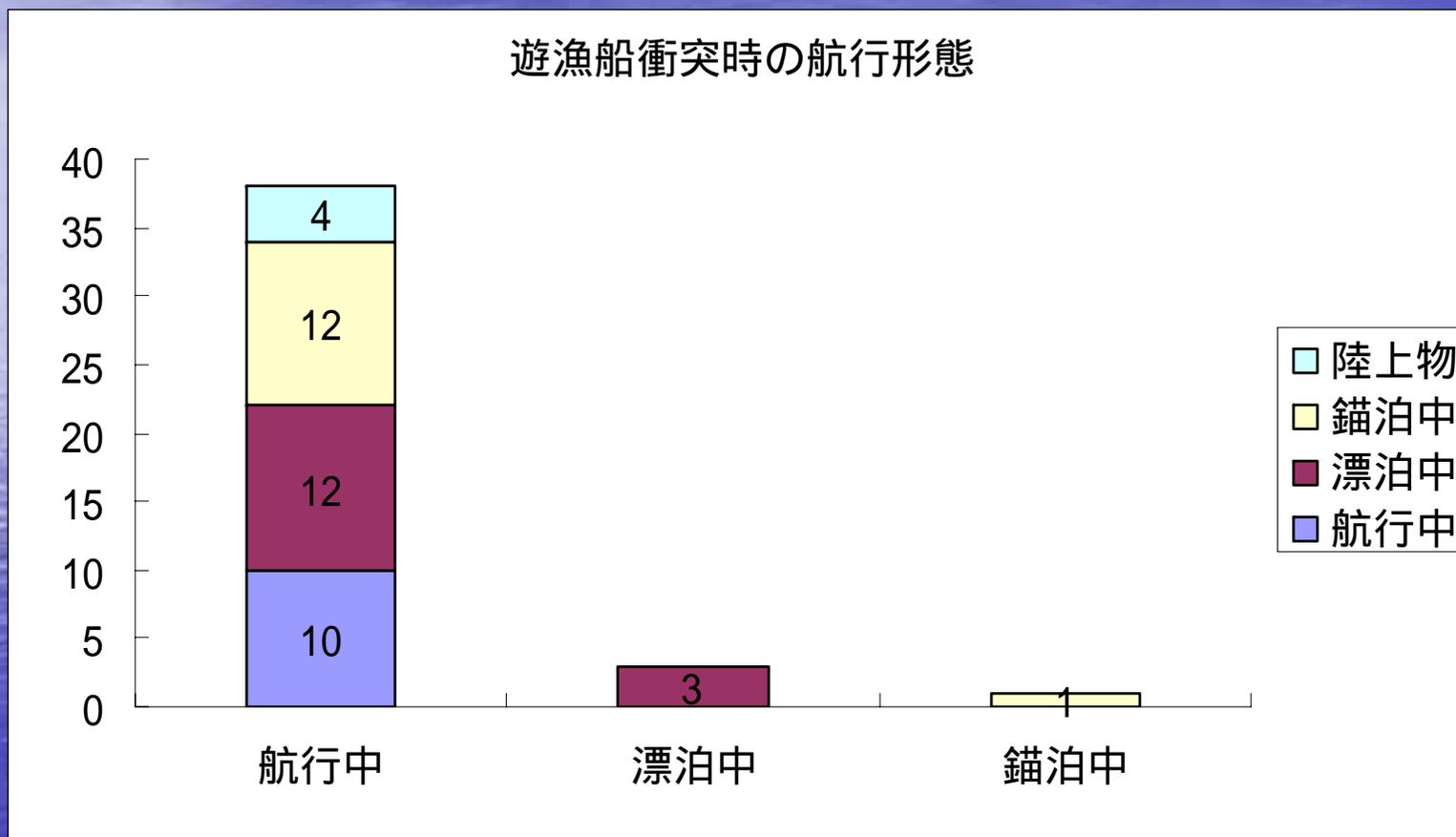
事故原因では見張り不十分が最も多い。

遊漁船の衝突事故の相手船等の状況



衝突の相手はプレジャーボート、漁船の順に多い。

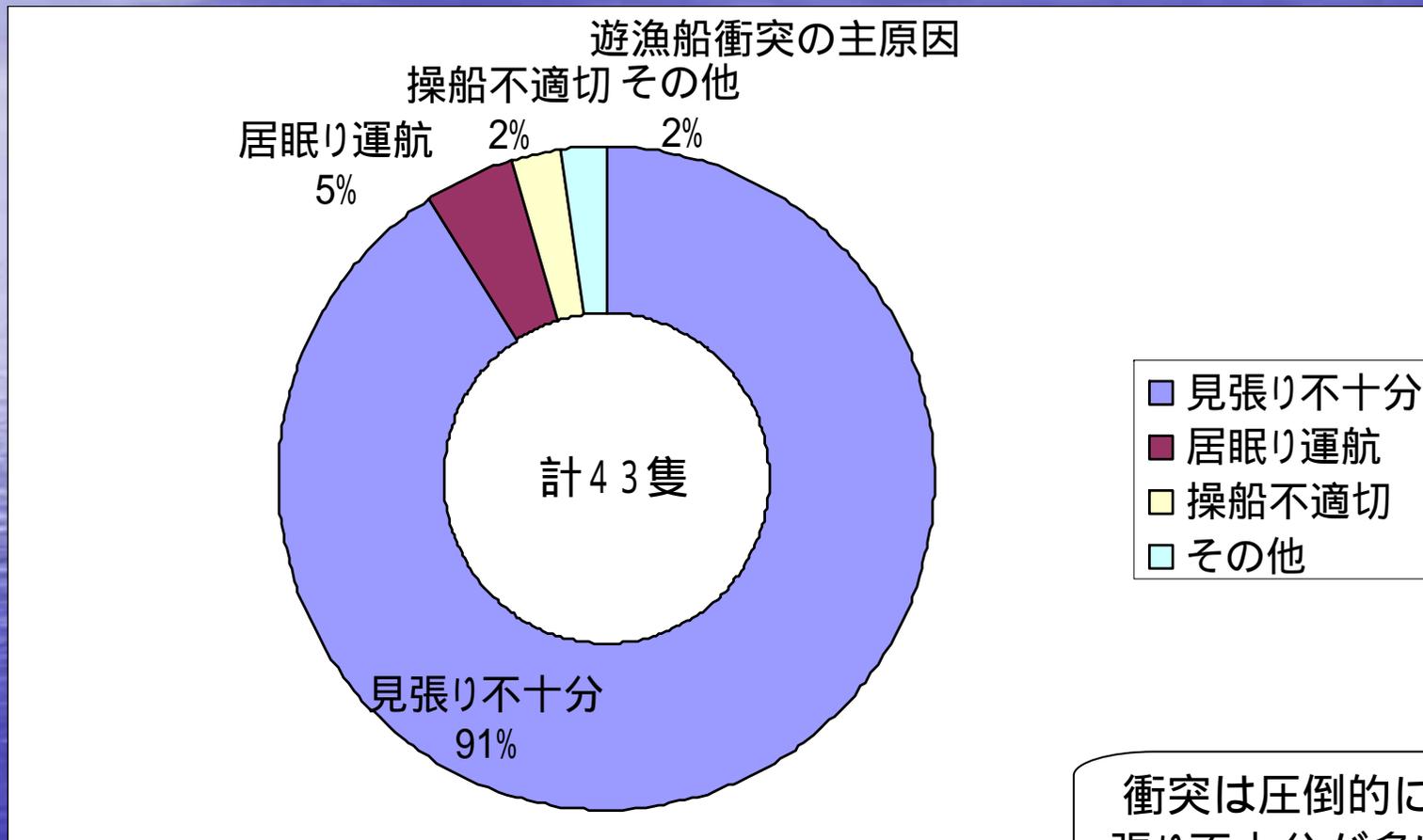
遊漁船衝突時の航行形態



遊漁船が航行中に衝突するケースが多い。

係留時の事故1
件は計上せず

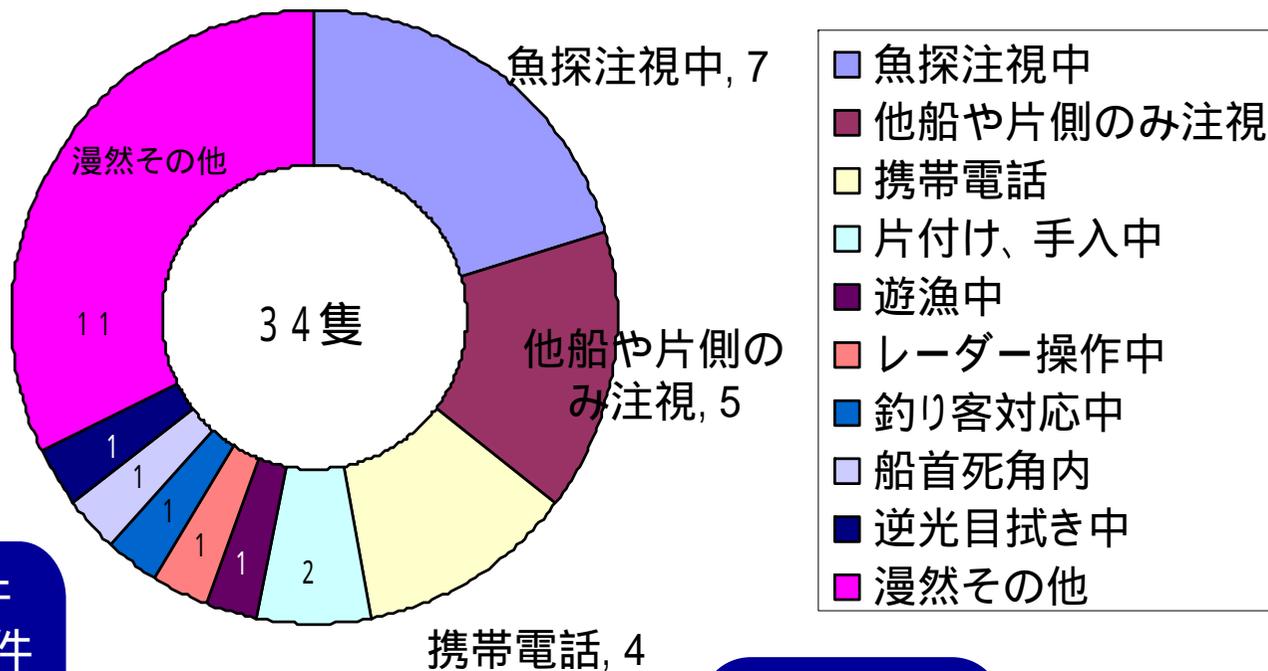
遊漁船の衝突事故における主原因



衝突は圧倒的に見張り不十分が多い。

遊漁船衝突事故中、直前まで 気付かず衝突した34件の態様

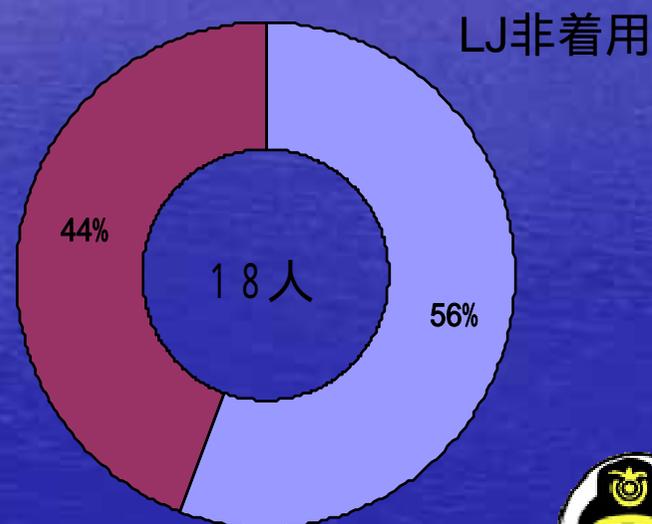
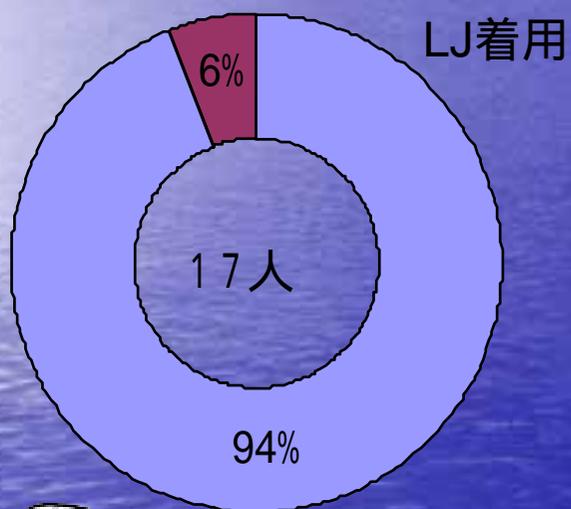
衝突中、直前まで気づかない又は衝突後に気付いた事例の態様



衝突43件
のうち34件
は、相手に
気付いて
いない

魚探注視中
とか遊漁船
特有の理由
がある。

海中転落者のライフジャケット着用状況別の救助状況



■ 救助
■ 死亡・行方不明

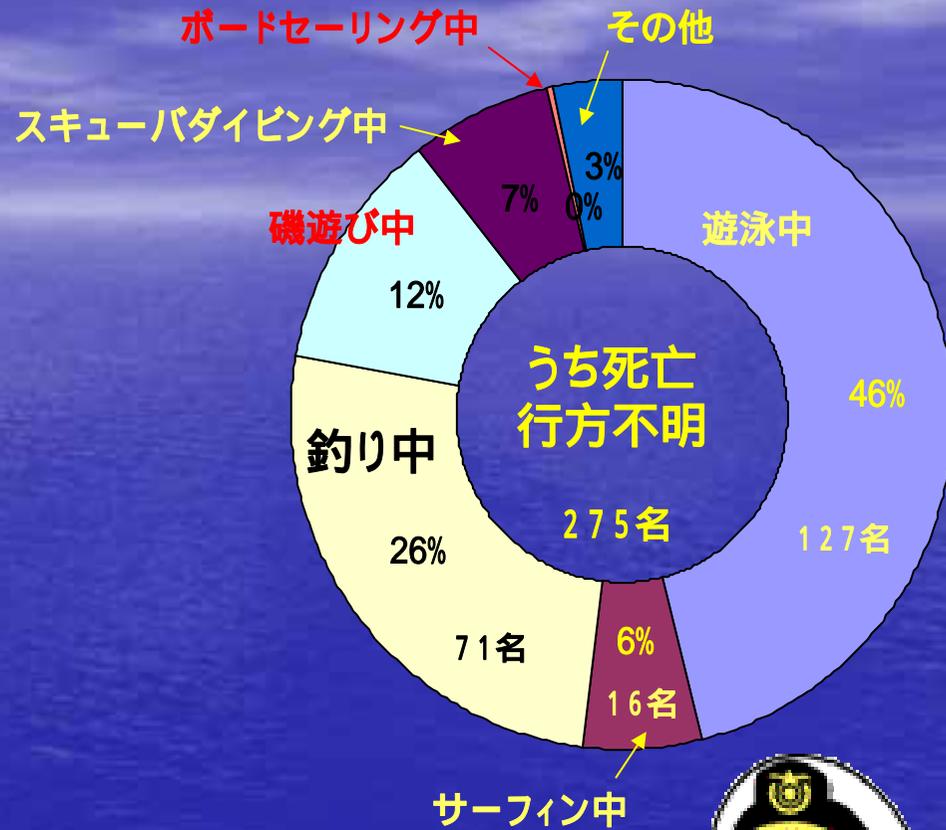
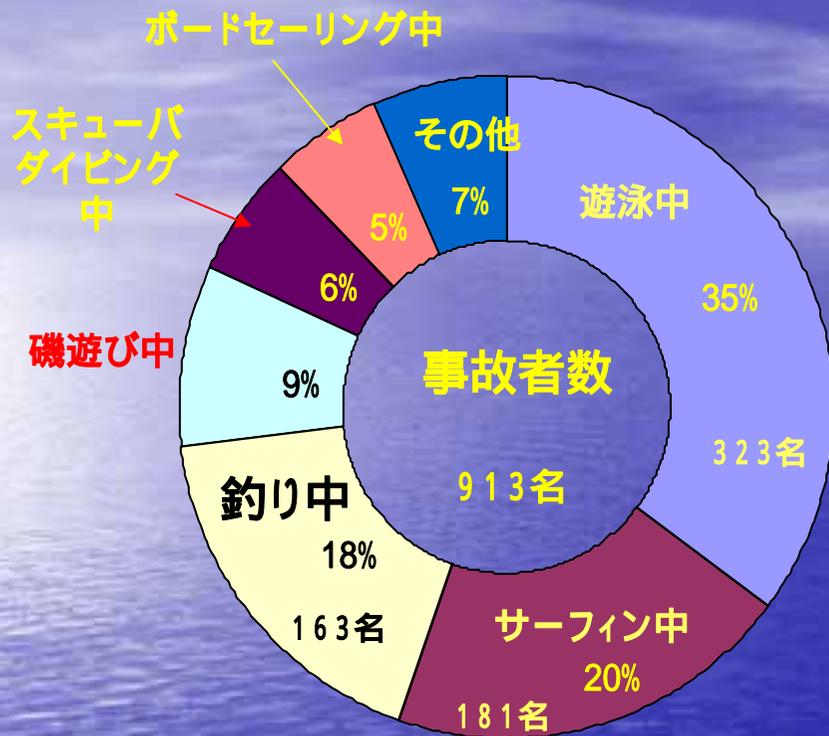
LJ着用時は
ほぼ100%
の救助率

■ 救助
■ 死亡・行方不明



2. 釣り愛好者の人身事故

過去5年間のマリレジャーに伴う人身事故内訳 (H15～19年)



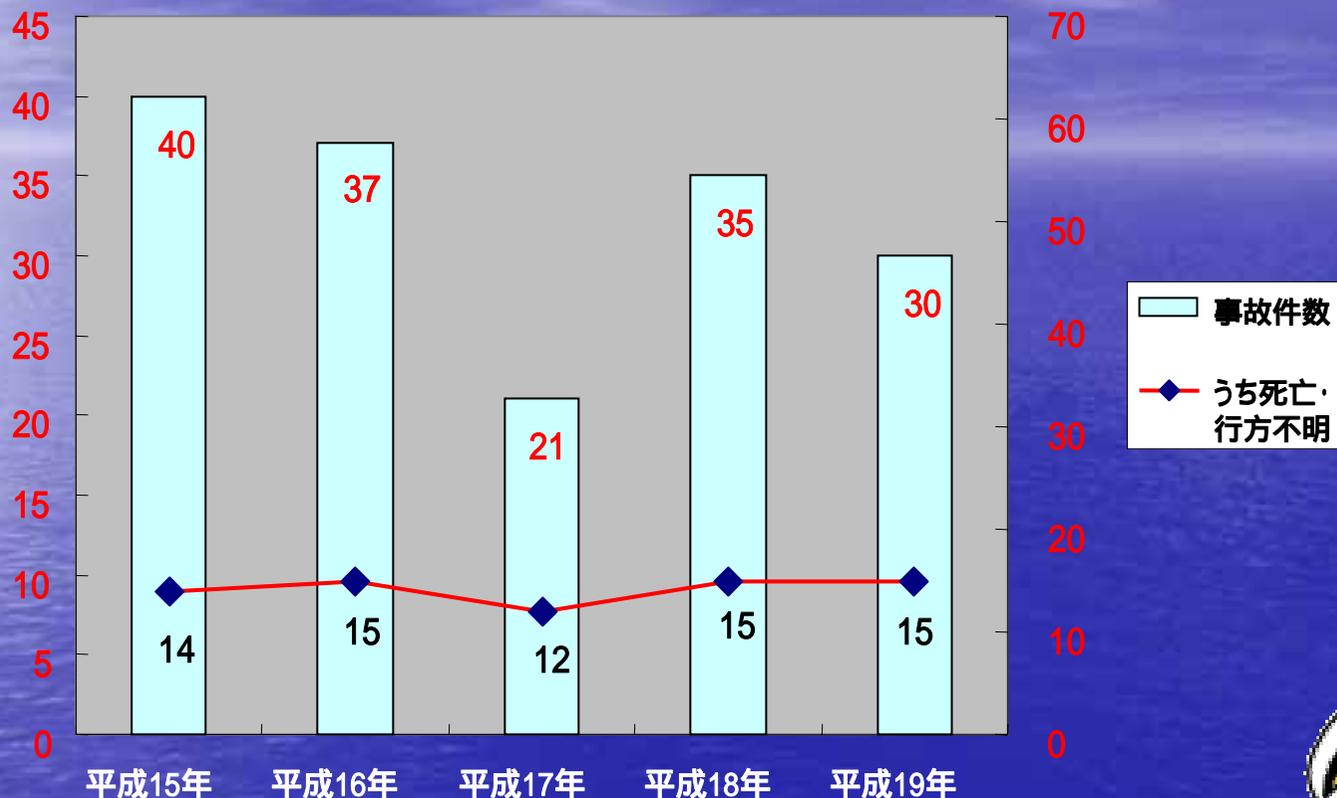
釣り中による事故はマリレジャーに伴う事故の中で2割を占め、死亡・行方不明については、3割弱を占め、遊泳中に次いで多い。



過去5年間の釣り中の事故発生状況(年別)

(H15~19年)

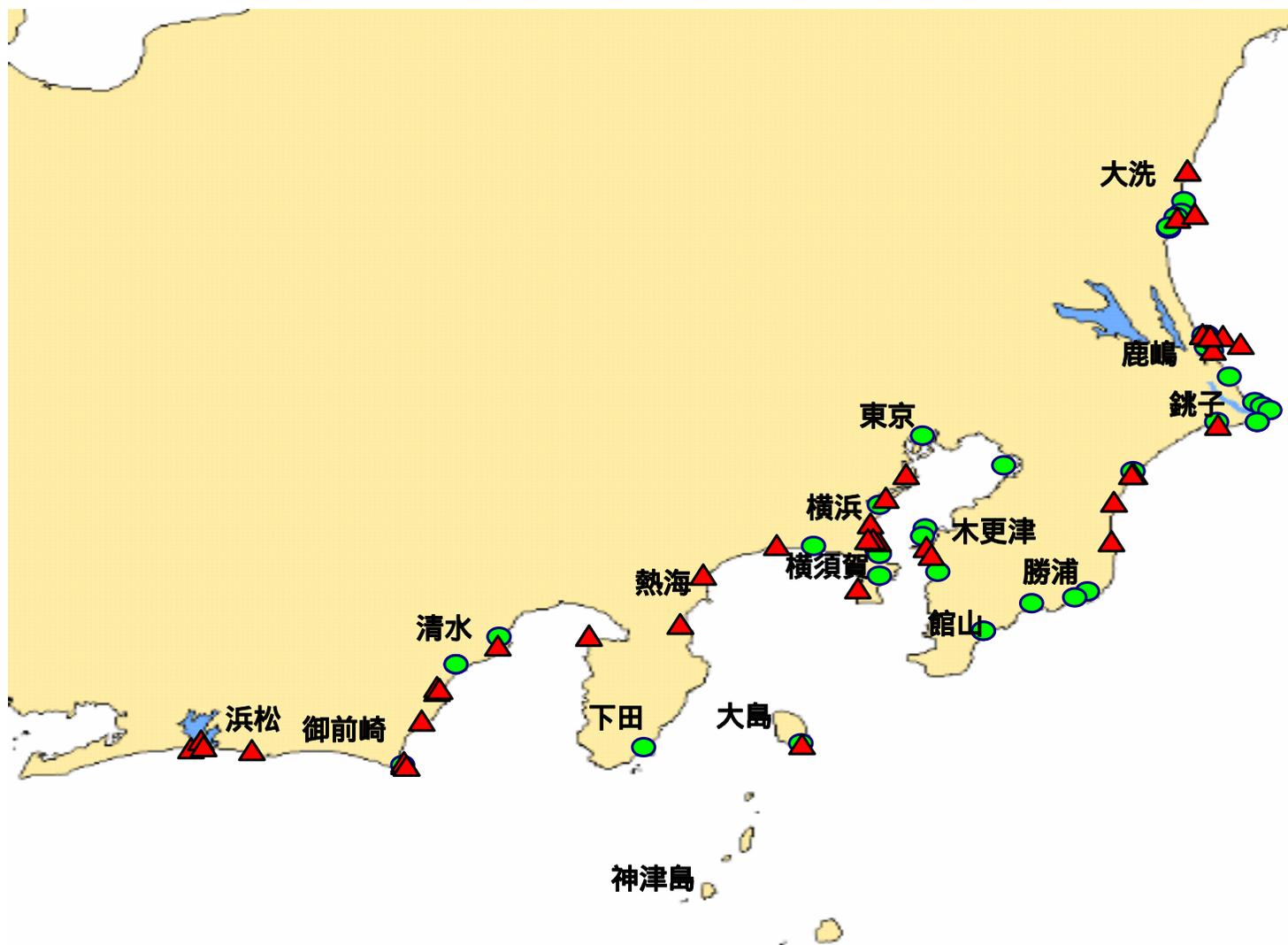
人数



釣り中の事故は、件数及び死亡・行方不明者数とも、ほぼ横ばいとなっている。

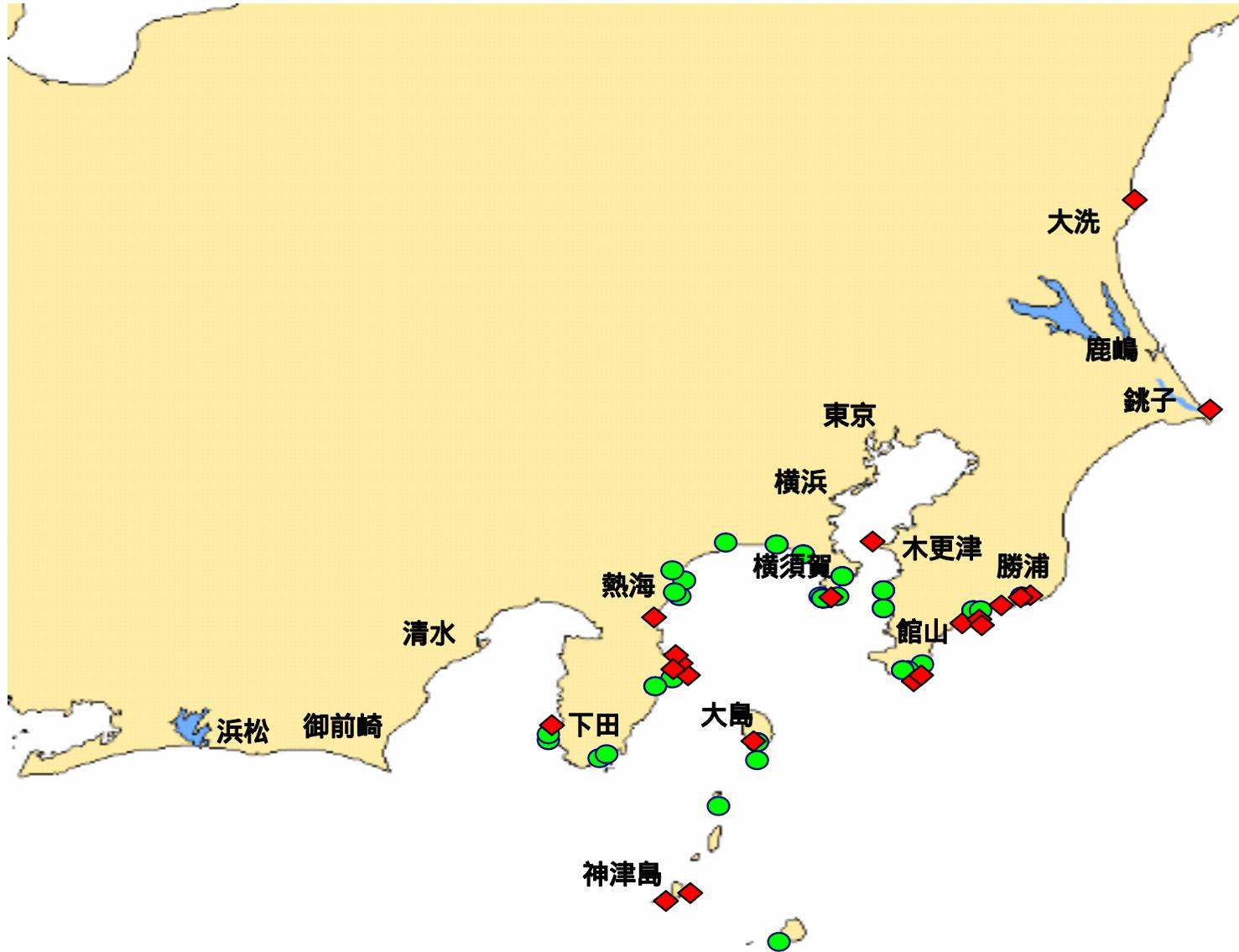


過去5年間の防波堤等での釣り中の事故分布図
(岸壁・防波堤・消波ブロック等)
(死亡は▲で表示)



過去5年間の機場での釣り中の事故分布図

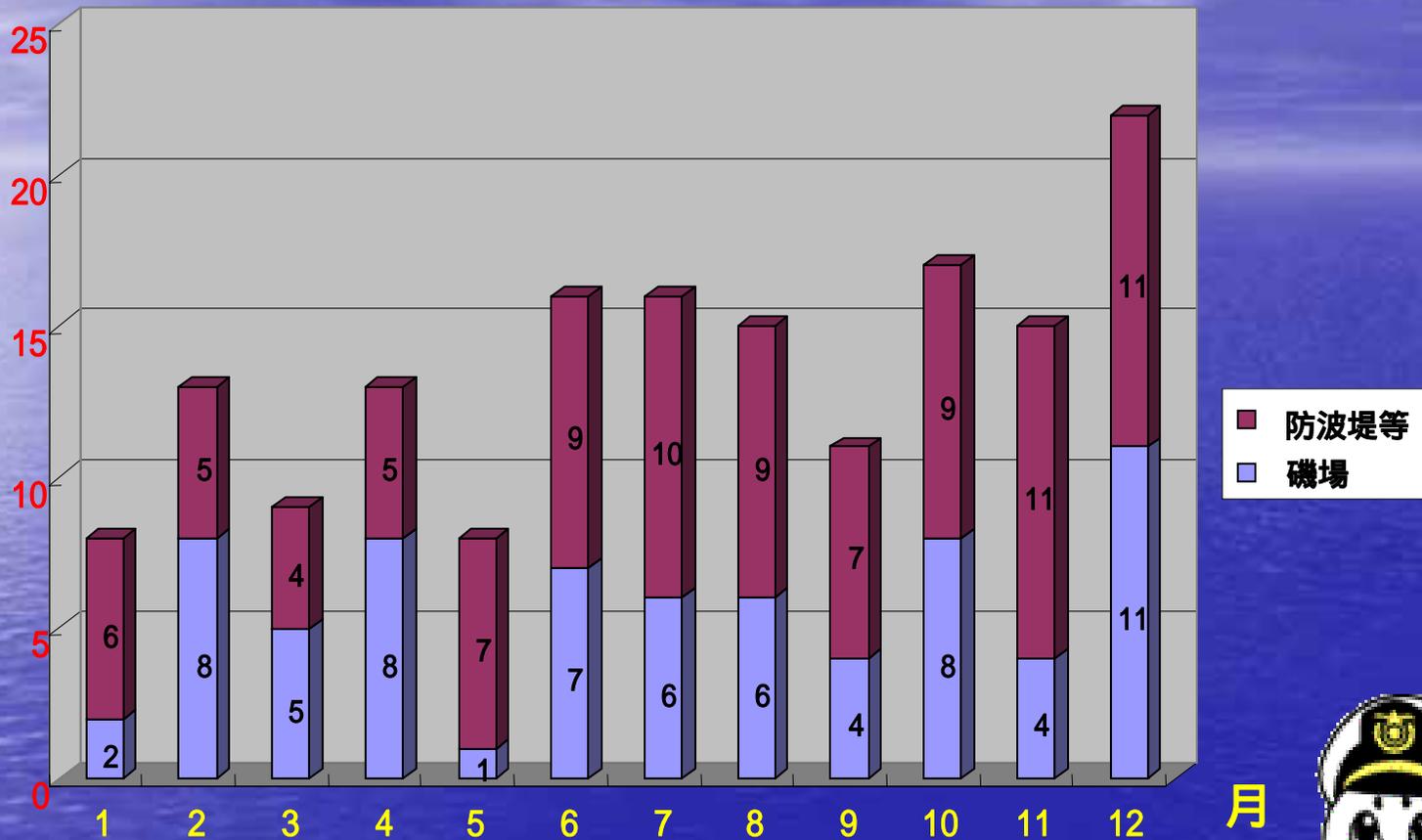
(死亡は▲で表示)



過去5年間釣り中の事故発生状況(月別) (H15~19年)

(三管区)

人数



月

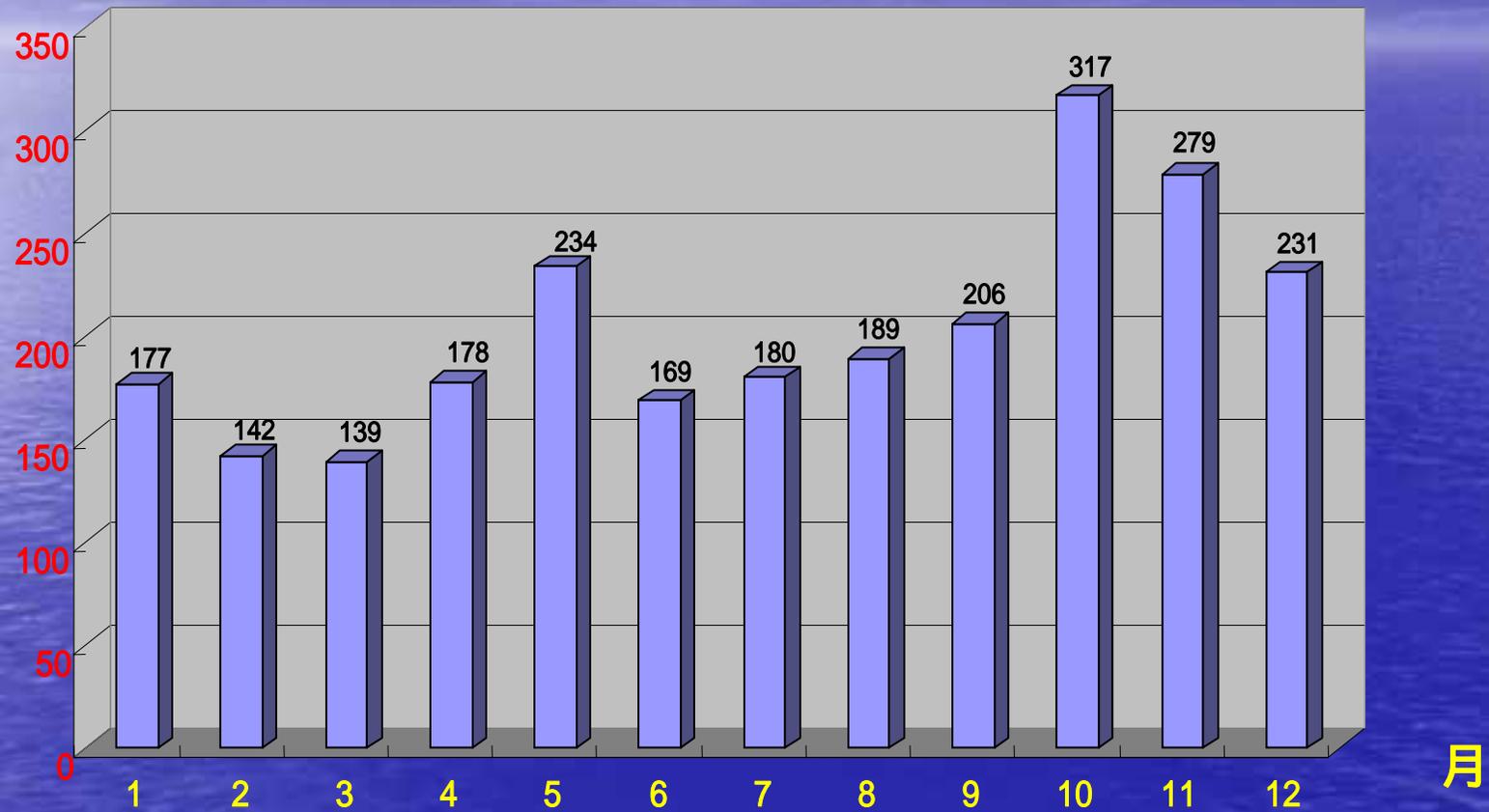
夏から秋にかけて事故が多く、
全国的には10,11月が最も多い。



過去10年間の釣り中の事故発生状況(月別) (H10~19年)

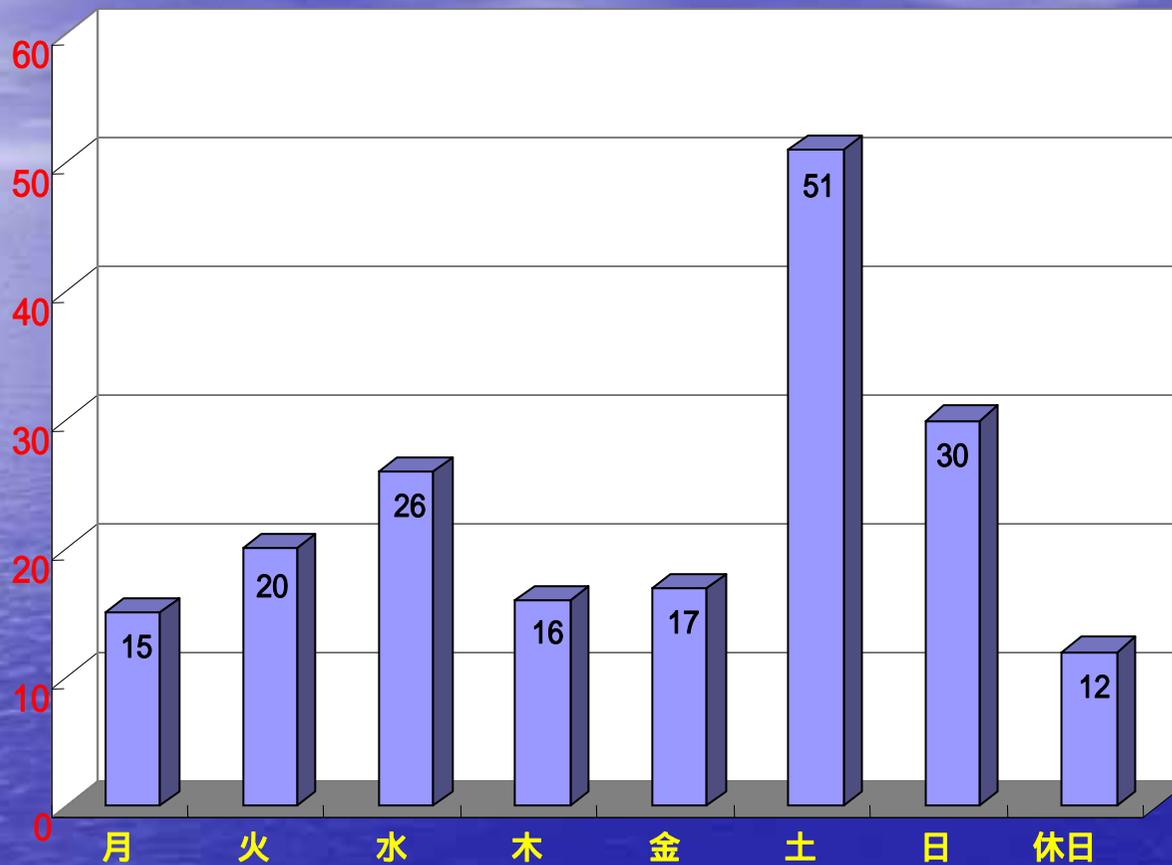
(全国)

人数



過去5年間釣り中の事故発生状況(曜日別) (H15~19年)

人数

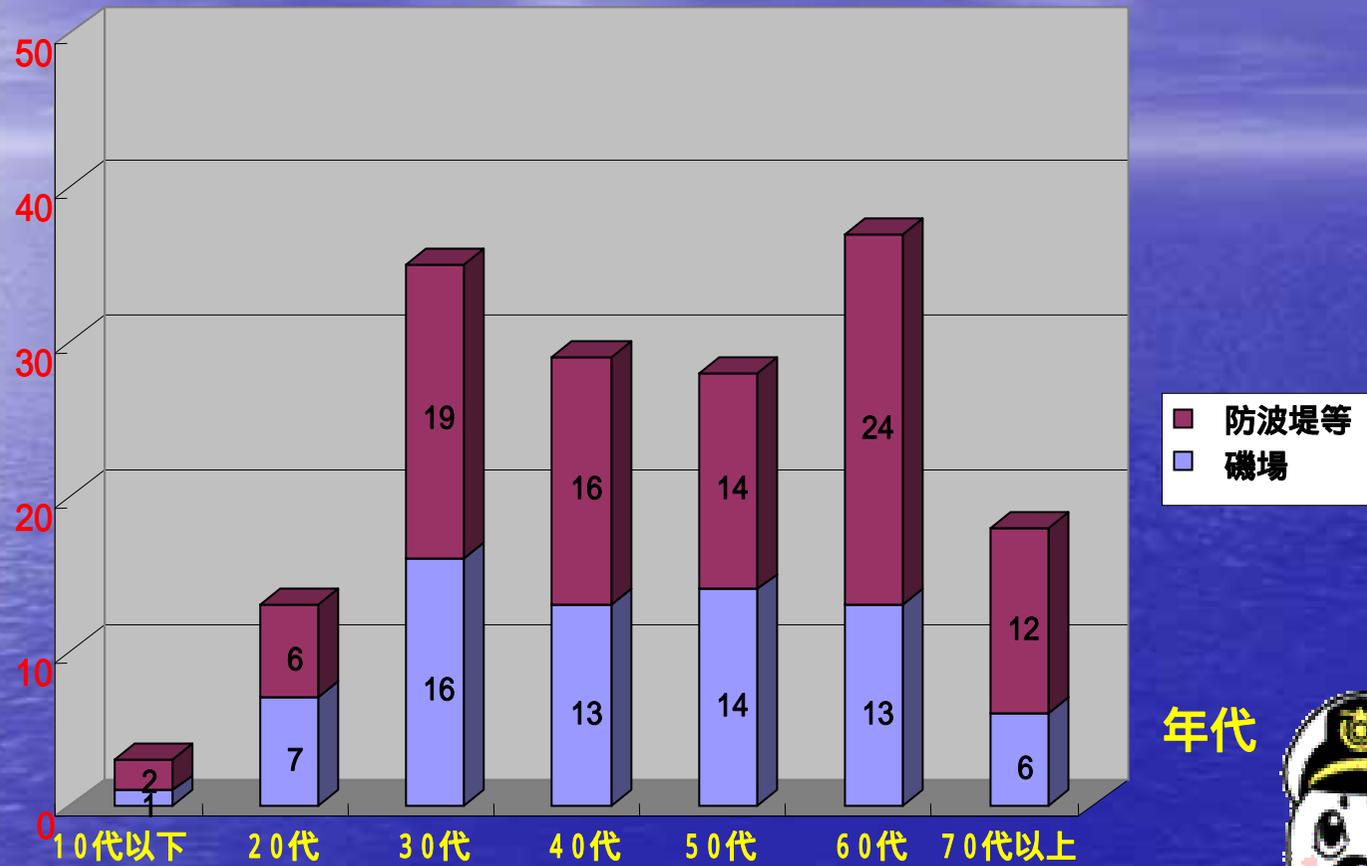


事故者数は土・日に多い。



過去5年間釣り中の事故発生状況(年代・場所別) (H15～19年)

人数

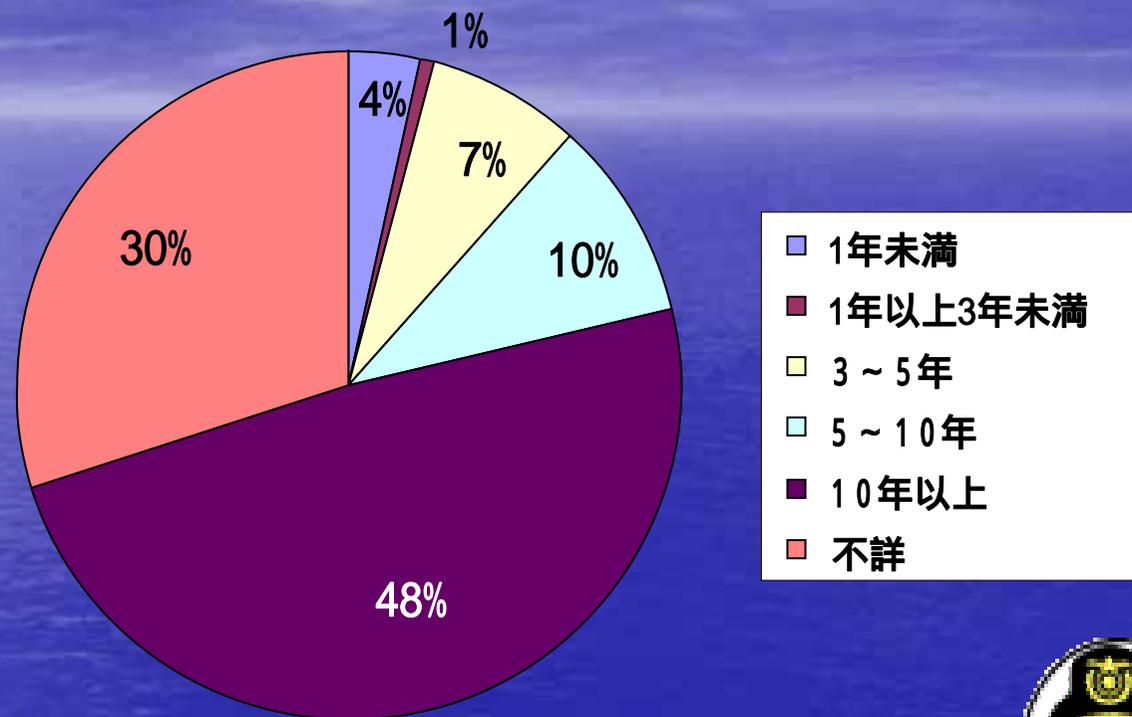


年代

30代から60代まで幅広い
年齢層で事故が多い。



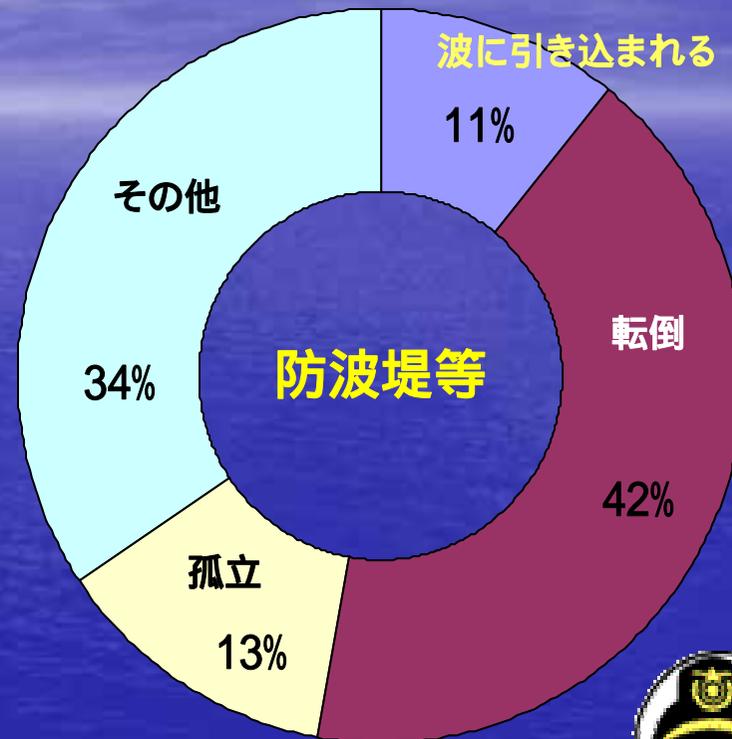
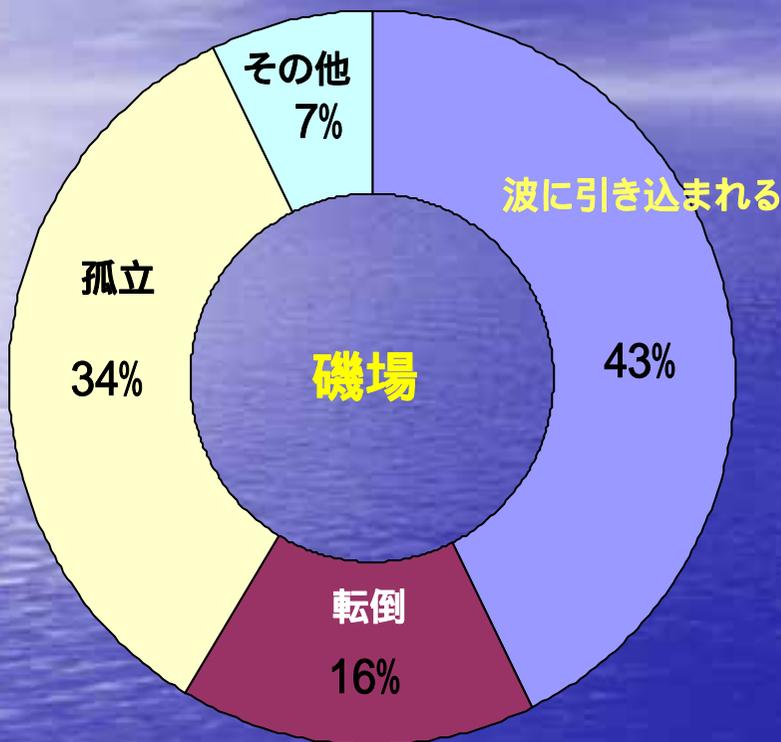
過去5年間釣り中の事故発生状況(経験年数別) (H15~19年)



意外にも10年以上の経験豊かな人の事故が多い。



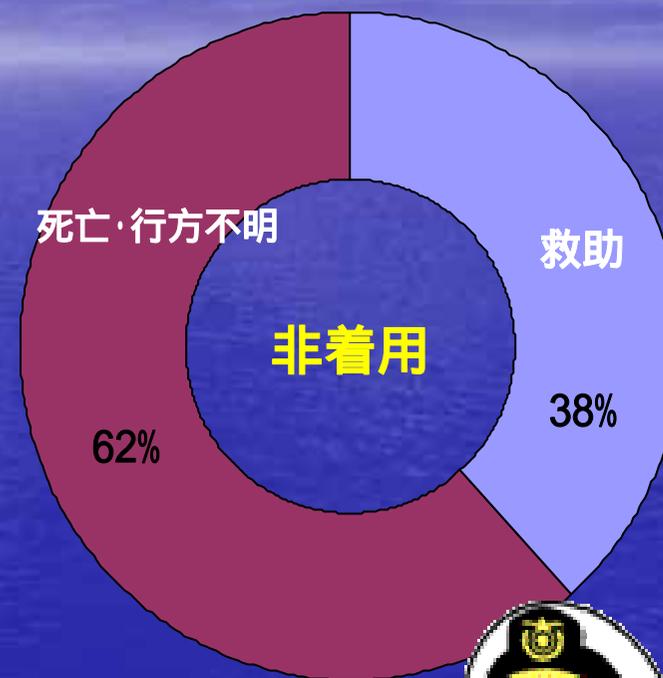
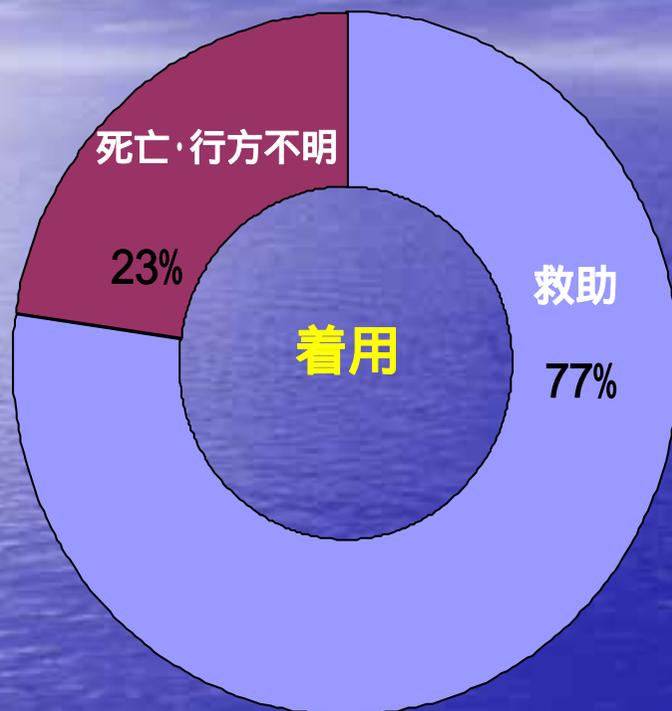
過去5年間の釣り中の事故原因 (H15～19年)



磯場では、波に引き込まれる・孤立が、防波堤等では転倒する人が多いのが特徴。



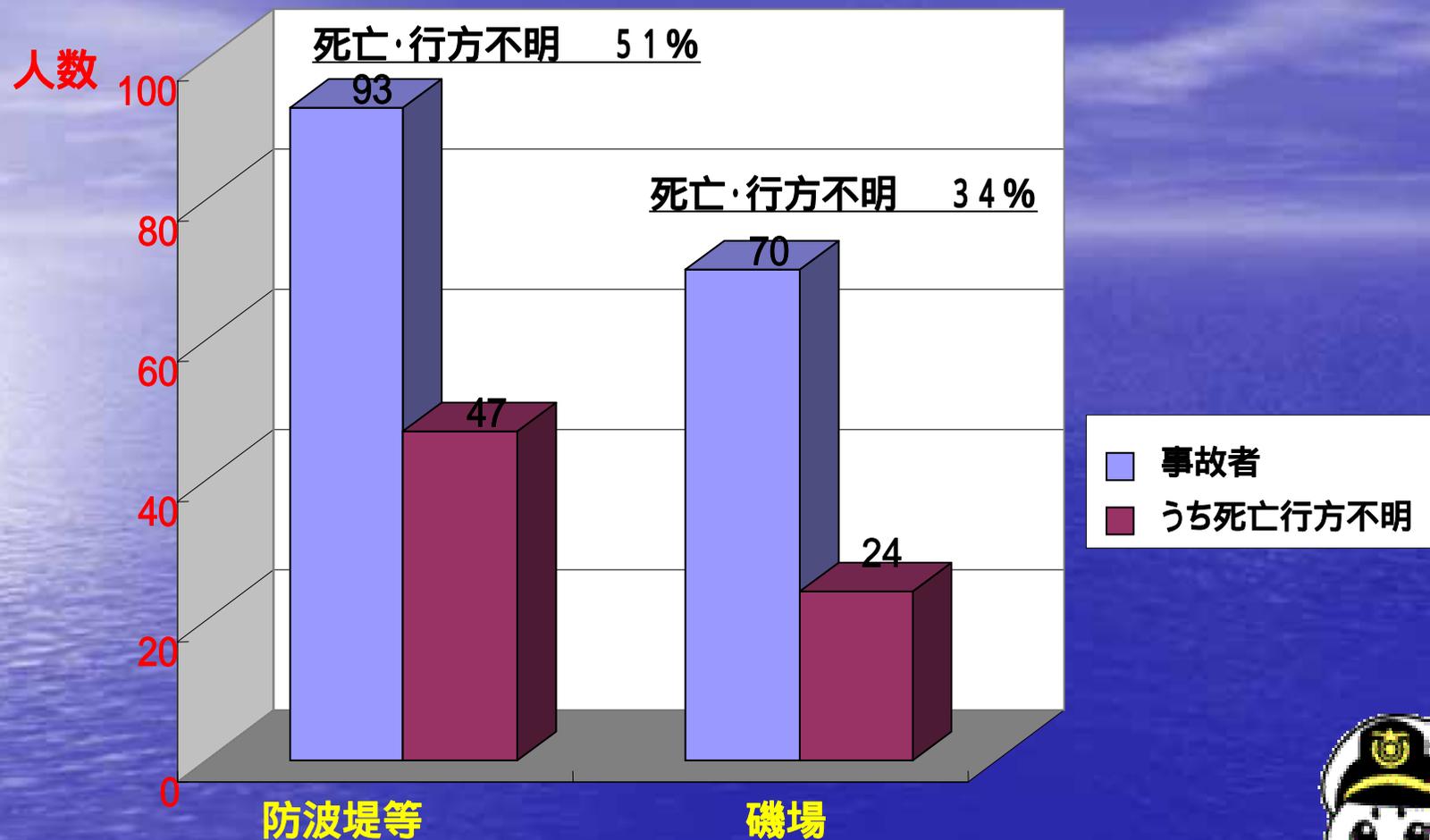
過去5年間の釣り中の海中転落者のライフジャケット着用別救助状況 (H15～19年)



ライフジャケット着用時の生存率が非着用時に比べ大幅に高い。



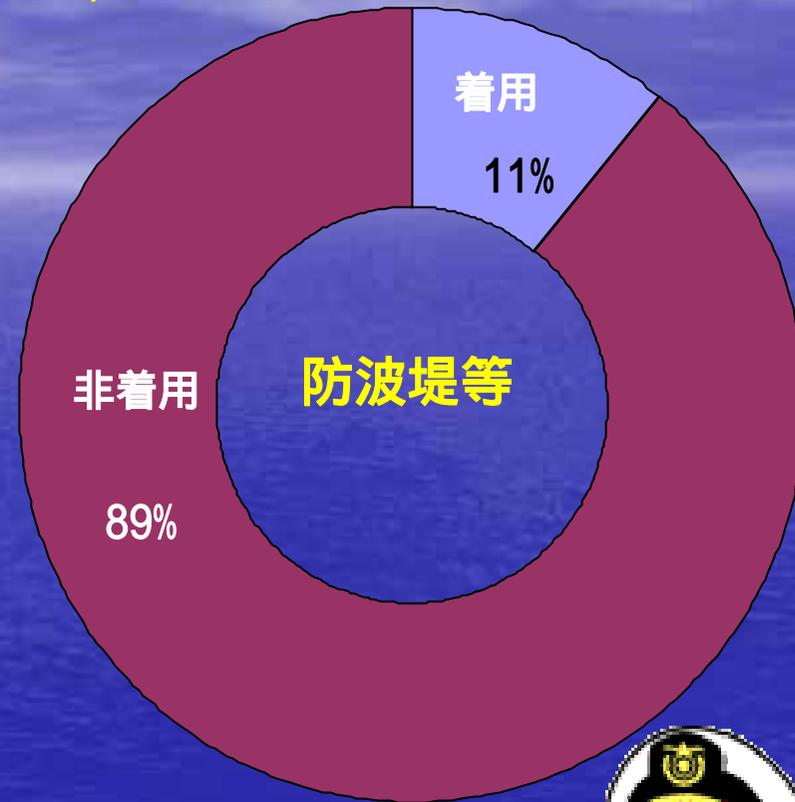
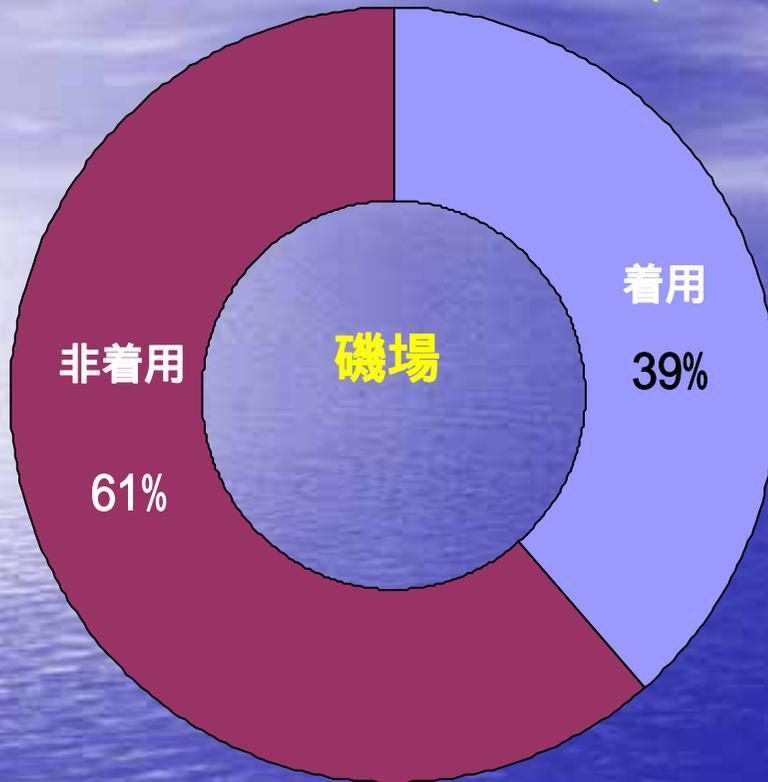
過去5年間の釣り中の場所別事故者数(H15~19年)



磯場よりも防波堤等での事故の方が死亡・行方不明になる割合が高い。



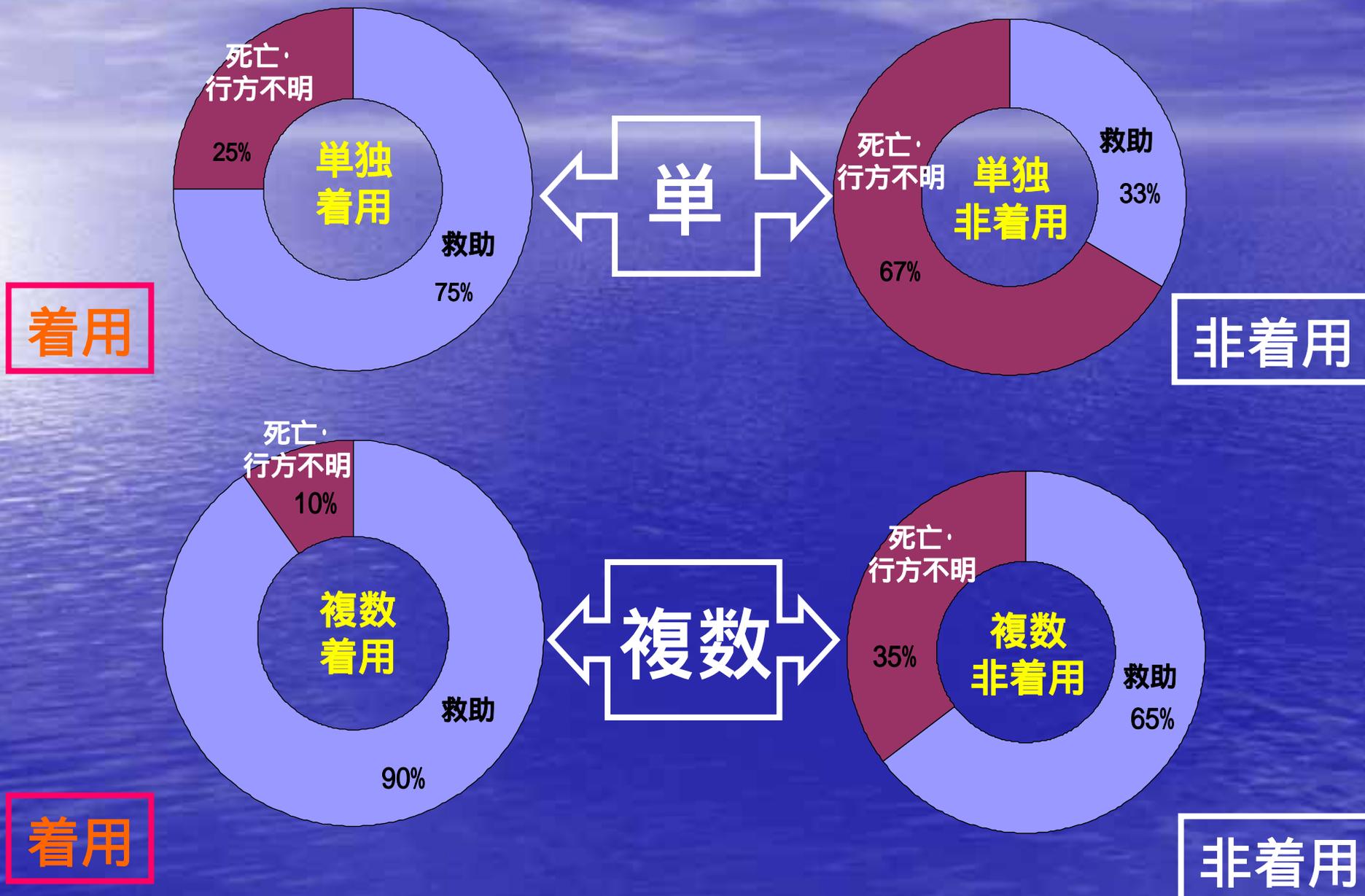
過去5年間の釣り中の事故者のライフジャケット着用状況 (H15～19年)



防波堤等で釣りをする人は、磯場で釣りをする人よりもライフジャケットを着用しない傾向にある。

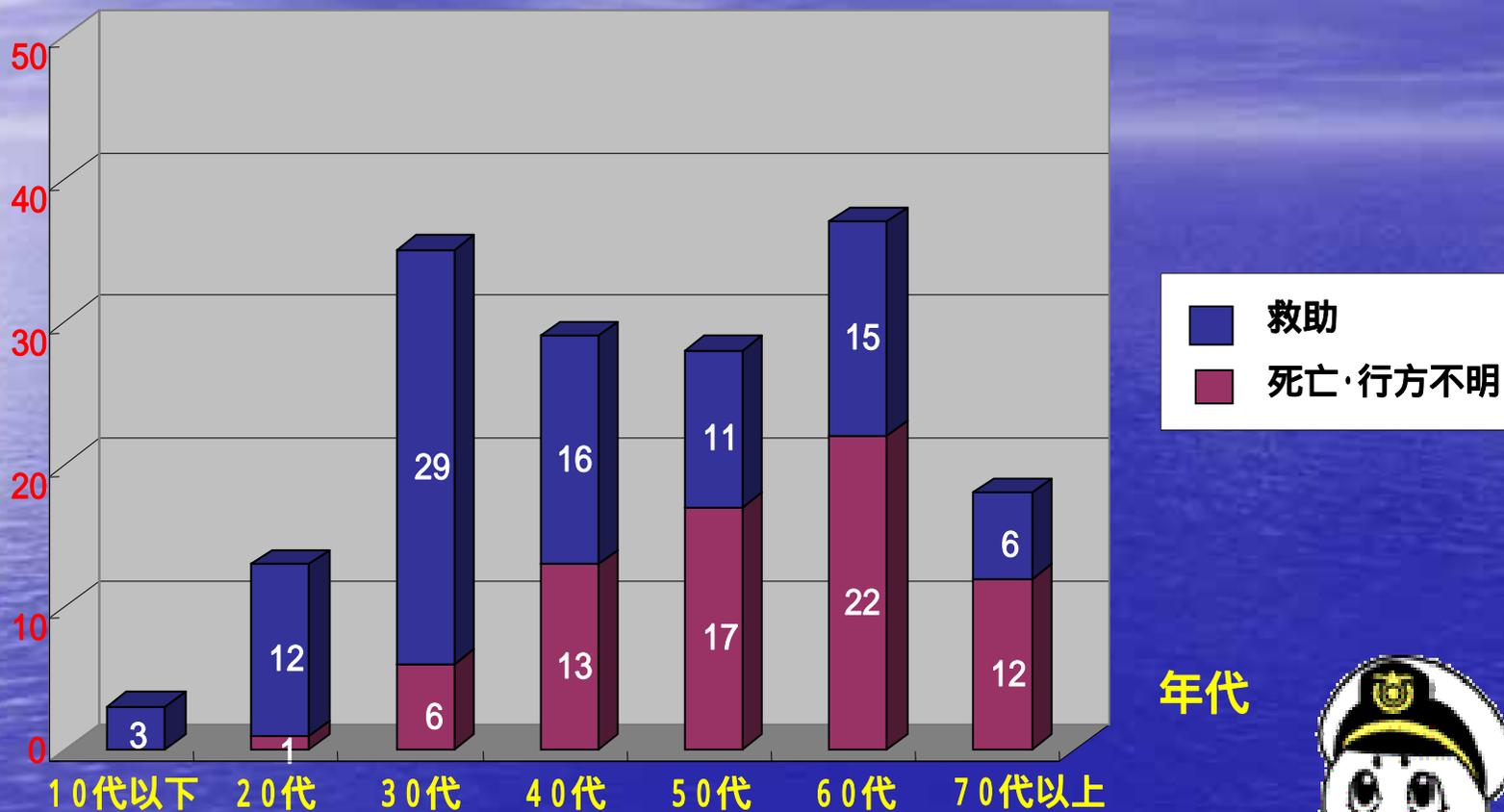


単独・複数別釣行及びライフジャケット着用・非着用別救助状況 (H15～19年)



過去5年間の釣り中の事故発生状況(年代・救助状況別) (H15~19年)

人数



年代

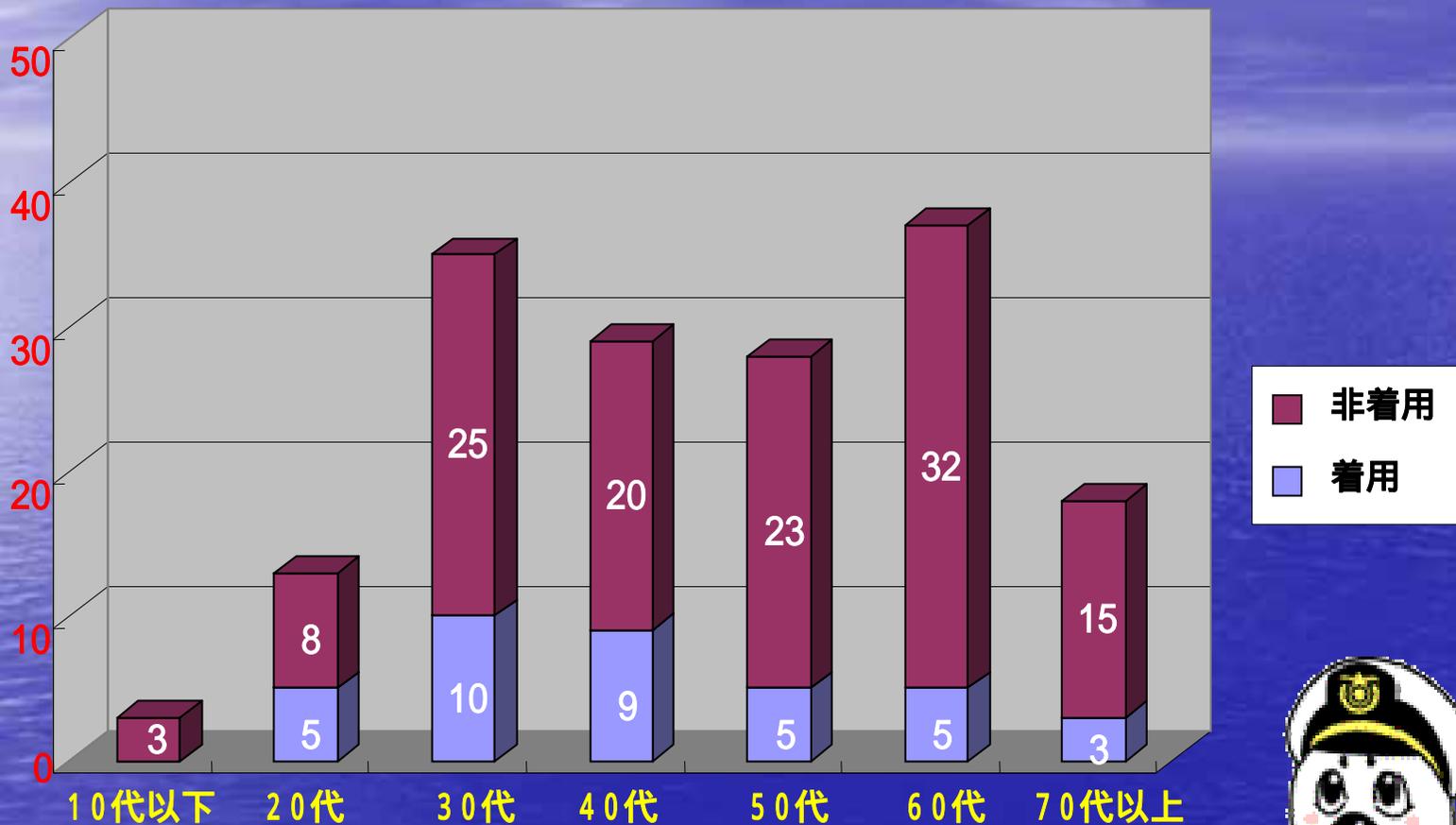


40代から事故時の死亡・行方不明になる率が高くなっている。

過去5年間の釣り中の事故発生状況(年代・着用別) (H15~19年)

人数

年代

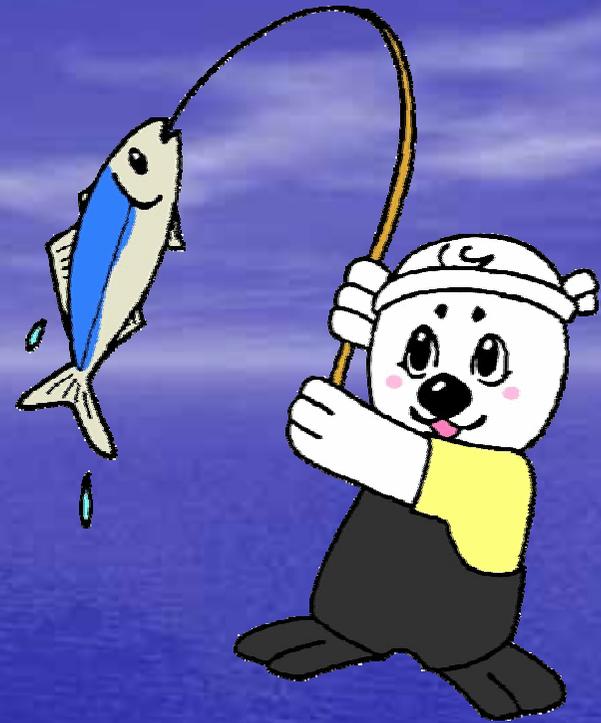


50代からのライフジャケット着用率が低くなっている。



まとめ

遊漁船事故の分析結果



事故は経験豊富な船長でも多く発生している。

魚場向け、遊漁中の時間帯の事故が多い。

海難の種類は衝突が最も多い。

衝突の多くは片方が漂流・錨泊している。

衝突の原因は見張り不十分が最も多い。

衝突の約7割は衝突直前まで気付いていない。

見張り不十分の原因には、魚探注視や釣り客への対応、船長も遊漁といった遊漁船特有の理由もある。

海中転落時、ライフジャケットは非常に有効

まとめ

釣り中事故の分析結果



- 事故者は意外にも経験豊かな人が多い。
- 防波堤においても、海中転落事故が多く発生している。
- ライフジャケット着用の方が生存率が高い。
- 単数より、複数で釣りに行った方が生存率が高い。
- 50代以降のライフジャケット着用率が著しく低下している。

守ってほしいこと

釣り客の釣果よりも、安心して釣りができるようにしましょう。安全でこそ、釣りが楽しくできるはず。釣り客を乗せている時は一度の事故が大惨事になってしまうかも！？それを十分認識しましょう。停留中でも見張りは大切です。周囲の確認を！死角を補う見張りをしましょう。

釣りは複数で行いましょう。経験が豊かだといって、安心しないようにしましょう。

ライフジャケットは全員が必ず着用しましょう。気象・海象に注意し無理をしないようにしましょう。



海上保安庁が推進する 自己救命策3つの基本

- ・ライフジャケットの常時着用
- ・防水パック入り携帯電話の所持
- ・海のもしもは118番

第三管区海上保安本部

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/03kanku/>

